

## ご 挨拶

北海道土木技術会 会長 阿部 芳昭



北海道土木技術会の会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。会報第40号の発行にあたりご挨拶を申し上げます。

東日本大震災から3年半になろうとしています。この発生直後から被害地にある多くの建設関係者が不眠不休で道路の啓開、港湾・航路の啓開作業に当たり、緊急物資の早期の被災地への輸送を可能にしたことは、建設業界では良く知られた事実です。また、これを契機として、公共事業バッシングが形を潜め、防災事業を主とした公共事業の重要性が一般国民にも理解されてきています。

一方平成24年12月に中央自動車道で発生した笹子トンネルの天井版落下事故では、公共施設の点検の有り方が問われ、維持管理の必要が叫ばれているところです。特に北海道のように厳しい積雪寒冷気候の環境下の施設については老朽化の速度も速くその対策が課題となっています。

このため第2次安倍内閣では、平成25年12月に「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する」国土強靱化基本法を成立させ、国土強靱化推進大綱に基づき、大規模自然災害等に対する脆弱性を評価することとしています。

このように震災復興に引き続き、各種施設の老朽化対策、更には2020年のオリンピックに向け建設業界に対する期待が急速に高まっています。このため、これまで縮小均衡を図ってきた建設業界では建設資材の高騰や技術者、技能者の不足を生じ、従来とは異なる多くの悩みを抱えています。

このような中、本北海道土木技術会は本年創立60周年を迎えることとなりました。この間、それぞれの時代に合わせ新たに研究委員会も設立されており、各研究委員会ではその時々々の北海道における課題の解決のため、独自の調査・研究を進め、提言や技術基準の制定等を行ってきています。特に近年では構造物の長寿命化や維持管理に関するもののほか土木技術や構造物に関する歴史的解析、さらには公共調達に関する研究等幅広い分野に及んでおり、喜ばしいことです。

本年はこのような節目の年にも当たりますので、各研究委員会においては、この機会を捉え、社会基盤整備を支える土木技術の重要性について広く一般の方々にも理解をして頂くようお願い致します。

会員の皆様これから1年間のご活躍をお祈り申し上げます。

## 本 部 の 活 動 報 告

平成 26 年度の役員会が下記のとおり開催され、平成 25 年度の本部及び各研究委員会の活動報告並びに平成 25 年度の事業計画、予算及び役員などが審議された。

日 時：平成 26 年 6 月 30 日（月）12：30～14：00

会 場：ホテル札幌ガーデンパレス

出席者：会 長	阿 部 芳 昭 (株) 田中組
副 会 長	三 浦 清 一 北海道大学名誉教授
副 会 長	池 田 憲 二 土木研究所寒地土木研究所
鋼道路橋研究委員会委員長	林 川 俊 郎 北海道大学大学院
コンクリート研究委員会委員長	上 田 多 門 北海道大学大学院
舗装研究委員会委員長	武 市 靖 北海学園大学
トンネル研究委員会委員長	藤 井 義 明 北海道大学大学院
道路研究委員会委員長	萩 原 亨 北海道大学大学院
土質基礎研究委員会委員長	田 中 洋 行 北海道大学大学院
建設マネジメント研究委員会委員長	高 野 伸 栄 北海道大学大学院
幹 事 長	西 本 聡 土木研究所寒地土木研究所
幹 事 (鋼 道 路 橋)	加 藤 静 雄 (株) ドーコン
(コンクリート)	工 藤 浩 史 (株) ドーコン
(舗 装)	木 村 孝 司 土木研究所寒地土木研究所
(ト ン ネ ル) (代理)	荒 木 雅 紀 (株) ドーコン
(道 路)	石 田 樹 土木研究所寒地土木研究所
(土 質 基 礎)	山 梨 高 裕 土木研究所寒地土木研究所
(建設マネジメント)	倉 内 公 嘉 北海道開発局
会 計 監 査 (土 質 基 礎)	及 川 利 徳 (株) 構研エンジニアリング
事 務 局	谷 澤 清 治
	林 美和子

### 1. 平成 25 年度事業報告および決算

#### (1) 役員会および幹事会の開催

##### 1) 役員会：平成 25 年 7 月 1 日(月) ホテルモントレ札幌で開催

本部および各委員会の平成 24 年度事業報告・決算報告と平成 25 年度事業計画・予算説明を行いました。また、平成 25 年度役員について審議・決定した。さらに、各研究委員会より最近の活動状況等の報告を受けた。

##### 2) 幹事会：平成 25 年 6 月 20 日(木) 北海道土木技術会会議室で開催

役員会に提出する平成 24 年度の事業報告および平成 25 年度の事業計画等について打ち合わせを行った。また、平成 25 年度事業のうち、「土木の日」協賛事業、会報の発行について打ち合わせを行った。

#### (2) 「土木の日」協賛事業

全研究委員会が参加して以下のとおり土木の日パネル展 2013 を実施した。

- ・開催月日 平成 25 年 11 月 18 日(月)～19 日(火)
- ・開催場所 JR 札幌駅 北口西コンコース イベント広場
- ・テ ー マ 「北の暮らしを支える土木」

- ・内 容 パネル展示、ビデオ上映、クイズ、リーフレット配布等
  - ・来場者数 1,297 人
- (3) 北海道土木技術会会報  
第39号を1,530部発行した。(平成25年7月1日)
- (4) 平成25年度本部決算  
「別紙-1」のとおり。

#### ■ ロゴマークの活用

平成23年度に北海道土木技術会のロゴマークができました。デザインは、北海道土木技術会の英語表記 (Association for Civil Engineering Technology of Hokkaido) の頭文字の CETH を組み合わせたロゴタイプとし、H の白抜き部分を区画線に見立て道路をイメージしています。また、7研究委員会を北斗七星に見立て、「北」をイメージしたものです。各研究委員会が実施するイベントなどの資料にお使いいただき、北海道土木技術会を PR していただければ幸いです。



## 2. 平成26年度事業計画および予算

- (1) 役員会および幹事会の開催
- (2) 「土木の日」協賛事業の実施  
全研究委員会の推薦者による実行委員会を立ち上げ、土木の日パネル展を実施する。
- (3) 会報第40号の発行
- (4) 平成26年度本部予算  
「別紙-2」のとおり。

## 3. 平成26年度役員

平成26年度役員について審議・決定した。

会 長	阿 部 芳 昭	(株) 田中組
副 会 長	三 浦 清 一	北海道大学名誉教授
副 会 長	池 田 憲 二 (※)	土木研究所寒地土木研究所
研究委員会委員長(鋼 道 路 橋)	林 川 俊 郎	北海道大学大学院
〃 (コンクリート)	上 田 多 門	北海道大学大学院
〃 (舗 装)	武 市 靖	北海学園大学
〃 (ト ン ネ ル)	藤 井 義 明	北海道大学大学院
〃 (道 路)	萩 原 亨	北海道大学大学院
〃 (土 質 基 礎)	田 中 洋 行	北海道大学大学院
〃 (建設マネジメント)	高 野 伸 栄	北海道大学大学院
幹 事 長	西 本 聡	土木研究所寒地土木研究所
幹 事 (鋼道路橋・幹事長)	加 藤 静 雄	(株) ドーコン
〃 (コンクリート・事務局長)	工 藤 浩 史	(株) ドーコン
〃 (舗 装・幹事長)	木 村 孝 司 (※)	土木研究所寒地土木研究所
〃 (トンネル・幹事長)	蟹 江 俊 仁	北海道大学大学院
〃 (道 路・幹事長)	石 田 樹	土木研究所寒地土木研究所
〃 (土質基礎・幹事長)	山 梨 高 裕	土木研究所寒地土木研究所
〃 (建設マネジメント・幹事長)	倉 内 公 嘉	北海道開発局
会 計 監 査 (土 質 基 礎)	安 味 則 次 (※)	前田建設工業 (株)
〃 (土 質 基 礎)	荒 木 正 芳 (※)	(株) 北海道建設新聞社

(※)は新任

## 平成25年度本部決算報告（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

## 収入の部

(単位：円)

科 目	25年度予算額	25年度決算額	差引増△減額	備 考
前年度繰越	442,164	442,164	0	
事務局賦金	1,302,200	1,302,200	0	各委員会賛助会費の8%
				256,000 (鋼道路橋)
				212,000 (コンクリート)
				148,000 (舗装)
				291,200 (トンネル)
				80,000 (道路)
				152,000 (土質基礎)
				163,000 (建設マネジメント)
雑 収 入	200	122	78	預金利息
合 計	1,744,564	1,744,486	78	

## 支出の部

(単位：円)

科 目	25年度予算額	25年度決算額	差引増△減額	備 考
会 議 費	60,000	66,267	△ 6,267	役員会会場費他
印 刷 費	190,000	192,780	△ 2,780	会誌印刷費(1,530部)
通 信 費	10,000	1,800	8,200	送料、切手
備 品 費	220,000	337,785	△ 117,785	事務機器購入、年間リース料
				コピーリース料 182,700
				PCリース 29,400 購入 125,685
HP管理費	80,000	80,850	△ 850	サーバー年間リース料
雑 費	30,000	31,230	△ 1,230	送金手数料、PC関連用品他
事務局維持費	500,000	500,000	0	土木350,000 地盤150,000
土木の日行事費	300,000	345,450	△ 45,450	パネル展会場借上費他
予 備 費	354,564	0	354,564	
合 計	1,744,564	1,556,162	188,402	188,402-78=188,324(繰越額)

平成25年度北海道土木技術会本部会計について、関係書類の内容を監査した結果適正に処理されていることを認めます。

平成26年5月29日

会計監査

及川 利徳

林 宏親

## 【別紙－２】

## 平成２６年度本部予算（平成２６年４月１日～平成２７年３月３１日）

## 収入の部

(単位：円)

科 目	25年度決算額	26年度予算額	備 考
前年度繰越	442,164	188,324	
事務局賦金	1,302,200	1,307,200	各委員会賛助会費の８％
			254,400（鋼道路橋）
			212,800（コンクリート）
			145,600（舗装）
			297,600（トンネル）
			78,400（道路）
			148,800（土質基礎）
			169,600（建設マネジメント）
雑 収 入	122	150	預金利息
合 計	1,744,486	1,495,674	

## 支出の部

(単位：円)

科 目	25年度決算額	26年度予算額	備 考
会 議 費	66,267	70,000	役員会会場
印 刷 費	192,780	200,000	会誌印刷費
通 信 費	1,800	5,000	切手代
備 品 費	337,785	210,000	リース料(コピー機)
HP管理費	80,850	90,000	サーバーリース料
雑 費	31,230	30,000	送金手数料他
事務局維持費	500,000	500,000	土木350,000 地盤150,000
土木の日行事費	345,450	200,000	パネル展会場借上費
予 備 費	0	190,674	
合 計	1,556,162	1,495,674	

## 各 研 究 委 員 会 の 活 動 報 告

### I. 鋼道路橋研究委員会（昭和 40 年 2 月設立 会員 294 名）

（委員長 林川俊郎、副委員長 村上 睦、渡辺 亮、幹事長 加藤静雄、事務局長 池田 準）

#### 1. 平成 25 年度事業報告 8 小委員会、1 作業部会

##### 1-1 情報小委員会（小委員長 白石 悟）

###### 1) ホームページの運営 鋼道路橋研究委員会ホームページ

- ① ホームページの移設および更新 各小委員会、事務局等の活動報告等の定期更新  
ホームページサーバーの移設完了（H25.10 月移設、更新完了）

新 URL <http://www.koudourokyo.net/>

###### ② 書籍購入案内等の掲載

土木の日パネル展 2013 の開催案内や

「北海道における鋼道路橋の設計施工指針（平成 24 年 1 月）」の書籍購入案内を掲載

###### 2) 幹事会の実施

第 1 回 幹事会（H25. 9. 30 パシフィックコンサルタンツ（株） 会議室 参加者 3 名）

・今年度の活動内容について ・ホームページの運営について

第 2 回 幹事会（H26. 4. 9 （株）ドーコン会議室 参加者 3 名）

・ホームページの更新について

##### 1-2 設計仕様小委員会（小委員長 村上 睦）

1) 「北海道における鋼道路橋の設計及び施工指針」に関して、道示対応部会に出席し、指針改定に関する情報収集を行うとともに、小委員会としての今後の改訂に対する対応方針についての確認を行った。

2) 土木の日パネル展出展への協力（H25. 11. 18～19 札幌駅 北口西コンコース）

##### 1-3 歴史・写真集小委員会（小委員長 松久 浩）

1) 平成 24 年度発注橋梁の実績調査を行った。

2) 平成 18 年度～平成 23 年度の発注橋梁実績取りまとめ。

###### 3) 小委員会の実施

第 1 回 平成 26 年 5 月 9 日（金） KKR 札幌ホテル 15:00～17:00

発注橋梁の実績調査及び取りまとめ。（8 名参加）

##### 1-4 講習・講演小委員会（小委員長 室橋 秀生）

1) 第 1 回 小委員会 日時：平成 25 年 6 月 10 日（月） 17:00 ～ 18:00

場所：TKP ガーデンシティ 札幌きょうさいサロン 出席者：15 名 議題：平成 25 年度活動計画

2) 第 1 回 現場見学会 日時：平成 25 年 10 月 24 日（木） 9:30 ～ 17:00

見学コース：北海道縦貫自動車道 士別市 中士別大橋架設現場 出席者：30 名

3) 第 1 回 技術発表会及び講演会 日時：平成 25 年 11 月 1 日（金） 13:00 ～ 17:20

場所：ホテルモントレエーデルホフ札幌 出席者：177 名

演題：(1) 橋建協報告【いい橋つくろう】

（一社）日本橋梁建設協会 橋梁技術発表会 実行委員会 館 暢氏

(2) 技術発表－1【耐候性鋼橋梁の損傷分析とさび外観評価システムの提案】

（一社）日本橋梁建設協会 技術委員会 製作小委員会 杉山 幸一氏

(3) 特別講演【現場踏査で視た橋梁の損傷とその原因診断と見るべき対策提案】

大阪大学 名誉教授 工学博士 松井 繁之氏

(4) 技術発表－2【道路ネットワーク維持管理の必要性と鋼橋の更新時期について】

（一社）日本橋梁建設協会 保全委員会 保全第二部会 亀山 誠司氏

(5) 技術発表－3【船舶衝突による合成桁斜張橋の損傷と補修】

（一社）日本橋梁建設協会 企画委員会 国際小委員会 井谷 達哉氏

1-5 振動小委員会（小委員長 宮森 保紀）

1) 第1回小委員会

本小委員会委員長の北見工業大学宮森保紀准教授と北海道大学大学院の J. Lopez Gimenez 氏から話題提供いただき、下記報告会を開催した。

日時：平成 25 年 11 月 22 日（金） 場所：ホテルモントレ札幌メイフェアホール 参加者：10 名

1. 話題提供：「Effectiveness of seismic isolation by friction pendulum system  
on steel curved highway bridges」

北海道大学大学院博士課程 J. Lopez Gimenez 氏

2. 話題提供：「橋梁の振動計測におけるスマートセンサーの適用事例」

北見工業大学准教授 宮森 保紀氏

3. 振動小委員会今後の活動方針

2) 第2回小委員会

名古屋大学名誉教授の山田健太郎先生から話題提供いただき、維持管理小委員会と合同で下記報告会を開催した。

日時：平成 25 年 12 月 18 日（水） 場所：北海道大学工学部 C207 教室 参加者：9 名

1. 話題提供：「鋼橋の維持管理に関する最近の話題」 名古屋大学名誉教授 山田 健太郎氏  
講演内容 ・メンテナンスに易しいシステム ・疲労と塗替え塗装 ・その他

1-6 技術調査小委員会（小委員長 西 弘明）

1) 第1回小委員会（情報小委員会、振動小委員会と共催、H26.5.30、ホテルモントレエーデルホフ札幌にて開催）

【鋼橋の撤去・架設に関する講習会】

(1) 講演 1：第二音戸大橋 空中ジョイントによる大ブロック一括架設

(一社) 日本橋梁建設協会 技術委員会 架設小委員会 道菅 裕一氏

(2) 講演 2：鋼橋の撤去方法

(一社) 日本橋梁建設協会 技術委員会 架設小委員会 越中 信雄氏

1-7 維持管理小委員会（小委員長 神山 繁）

1) 第1回小委員会

平成 25 年 12 月 18 日振動小委員会と合同で、「鋼橋の維持管理に関する最近の話題」と題し、名古屋大学の山田健太郎名誉教授を講師に招いて勉強会を実施。

1-8 複合構造小委員会（小委員長 松本 高志）

1) 第1回小委員会

北海道大学との共催による複合構造小委員会（講習会）を開催した。

日時：平成 25 年 7 月 30 日（火） 場所：北海道大学工学部 参加者：20 名

演題：「失敗から学ぶ～橋梁の事例を中心に～、及びスイスにおける橋梁の補修・補強について」  
スイス連邦工科大学教授 ブリュール氏

2) 第2回小委員会

複合構造小委員会（講習会）を開催した。

日時：平成 25 年 12 月 12 日（木） 場所：北海道大学工学部 参加者：16 名

1. 話題提供：100 年橋梁を目指してー鋼コンクリート合成床版を用いた少数I桁橋の維持管理ー  
(30 分) (一社) 日本橋梁建設協会 技術委員会 床版小委員会 佐々木竜治氏

2. 話題提供：RC床版における疲労解析 (30 分) 北海道大学大学院 松本 高志氏

3. 話題提供：北海道（積雪寒冷地）における道路橋RC床版の現状について (30 分)

4. 話題提供：津波を考慮する橋梁設計の今後の方向性について (30 分)

(独) 寒地土木研究所 寒地構造チーム 岡田 慎哉氏

### 1-9 道路橋示方書対応部会（部会長 松本 高志）

平成 24 年 1 月に発刊した「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針」に対し、H24 道路橋示方書改訂事項に対する見直しを行った。

- 1) 第 1 回部会 平成 25 年 6 月 17 日（月） 10:00～12:00 出席者：18 名  
内容：改訂方法と内容についての討議、スケジュール確認
- 2) 第 2 回部会 平成 25 年 9 月 30 日（月） 13:00～15:00 出席者：17 名  
内容：WG 活動状況報告と討議
- 3) 第 3 回部会 平成 25 年 12 月 27 日（金）10:00～12:00 出席者：17 名  
内容：改訂状況報告と討議
- 4) 第 4 回部会 平成 26 年 4 月 22 日（火） 10:00～12:00 出席者：11 名  
内容：改訂状況報告と討議、スケジュール確認
- 5) 第 5 回部会（予定）  
日時：平成 26 年 7 月上旬 内容：改訂内容の最終確認

### 1-10 「土木の日」分科会（分科会長 林川 俊郎）

日時：平成 25 年 11 月 18 日（月）・19 日（火）場所：札幌駅北口西コンコース イベント広場

タイトル：北の暮らしを支える土木技術 … 土木の日パネル展 2013

主催：北海道土木技術会 鋼道路橋・コンクリート・舗装・トンネル・道路・土質基礎・建設マネジメント7 研究委員会

・総入場者数 18 日：577 名 19 日：720 名 計 1,297 名（2012 年 752 名：3 日間）

### 1-11 事務局（事務局長 池田 準）

- 1) 平成 25 年度総会を開催した。

日時：平成 25 年 6 月 5 日（水） 場所：ホテルモントレエーデルホフ札幌

特別講演 『鋼橋の損傷評価と補修・補強法の開発に関する研究事例』

釧路工業高等専門学校長 岸 徳光氏

- 2) 常任委員会（平成 26 年 5 月 28 日）を開催した。

- 3) その他

- ・総会議事録の送付及び決議事項を報告した。 ・年会費を請求した。
- ・新年度委員の委嘱事務を行った。 ・書籍の販売・配布を行った。
- ・海外研修の支援を行った。

平成 25 年 6 月 3 日～6 月 5 日（エジンバラ スコットランド） ICSBOC2013 に参加

室蘭工業大学准教授 小室 雅人氏 （株）ドーコン 佐々木 康史氏

平成 25 年 8 月 28 日～8 月 30 日（オーストリア）

国際会議 VEESD2013にて論文発表 北大修士課程 1 年 Javier Lopez Gimenez 氏

- ・EASEC-13（第 13 回構造工学および建設に関する国際会議）への助成を行った。
- ・JSBM2013（第 9 回日韓ジョイントセミナー）に参加した。
- ・鋼橋セミナーを支援した。（日本橋梁建設協会主催） テーマ：「鋼橋へのアプローチ」

①北海学園大 ②函館高専 ③北見工大 ④旭川工業高校

## 2. 平成 26 年度事業計画

### 2-1 情報小委員会（小委員長 白石 悟）

- 1) 鋼道路橋研究委員会のホームページの運営を行う。
  - ・定期的な更新に加え写真集の追加更新、講演会資料の掲載等を検討
- 2) 鋼橋に関する情報収集を行い、検討会を開催する。
  - ・情報提供および検討会開催の企画

### 2-2 設計仕様小委員会（小委員長 村上 睦）

- 1) 性能規定型設計への移行を踏まえ、「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針（平成 24 年 1 月）」の今後のあり方について検討する。
- 2) 鋼道路橋の基準改訂に関する最近の話題と資料収集を行う。

2-3 歴史・写真集小委員会（小委員長 甲斐 明）

- 1) 平成 25 年度の発注橋梁の実績調査を行う。
- 2) 平成 18 年度～平成 24 年度の発注橋梁実績取りまとめ。
- 3) 写真集第 12 集発刊に向けての収集検討。

2-4 講習・講演小委員会（小委員長 室橋 秀生）

- 1) 講習会、講演会、現場見学会等を合計 2 回程度、会員の要望を反映して行う。

2-5 振動小委員会（小委員長 宮森 保紀）

- 1) 鋼道路橋の橋梁振動問題に関する最近の情報交換と資料収集を行う。
- 2) 鋼道路橋の耐震設計ならびに耐震性能について意見交換を行う。
- 3) これらに関する勉強会・講演会を開催する。

2-6 技術調査小委員会（小委員長 西 弘明）

- 1) 鋼道路橋に関する各種基準・規定や新技術について調査検討を行う。
- 2) 鋼道路橋の現状および新たな技術に関する勉強会を開催する。

2-7 維持管理小委員会（小委員長 榊原 仁志）

- 1) 維持管理（特に長寿命化技術）に関する情報交換と資料収集を行う。
- 2) 維持管理（特に長寿命化技術）に対する視野を広げるため勉強会を開催する。
- 3) 診断技術に関する情報交換と資料収集を行う。

2-8 複合構造小委員会（小委員長 松本 高志）

- 1) 複合構造に関する最近の情報交換と事例収集を行う。
- 2) 複合構造の設計及び維持管理・補修に関する勉強会を開催する。

2-9 道路橋示方書対応部会（部会長 松本 高志）

当部会は、平成 24 年度から 2 年間の期限で活動してきたが、1 年間の延長を行い以下の活動を行う

- 1) 改訂版（H24 道示対応版）の公開
- 2) 指針（H24. 2）の Q & A および正誤表の公開

なお、改訂版、Q & A、正誤表は、本研究委員会の WEB 上で公開する。

2-10 「土木の日」分科会（分科会長 林川 俊郎）

北海道土木技術会として開催する「土木の日」に参加する。

2-11 事務局（事務局長 池田 準）

- 1) 出納事務を行う。
- 2) 書籍の販売を行う。
- 3) 常任委員会、総会の開催準備を行う。
- 4) その他
  - ・北海道土木技術会幹事会、役員会を支援する。
  - ・鋼橋技術研究会、九州橋梁構造工学研究会との交流を図る。
  - ・海外研修の支援事務を行う。
  - ・研究支援を行う。
  - ・鋼橋セミナーの開催を行う。

2-12 50 周年記念事業

- 1) H26. 7：先輩技術者による座談会を開催する。「これからの土木技術に望むこと」など
- 2) H26. 7：親子現場見学会を開催する。  
鋼道路橋研究委員会関係者の小学生 30 名（バス 2 台）程度募集
- 3) H26. 10：現場視察会を開催する。1 泊 2 日東京方面で集合・解散。
- 4) H26. 10：記念講演会を開催する。講演者：林川委員長、亘 信夫氏、特別講演も予定
- 5) H26. 10：祝賀会を開催する。
- 6) H26. 11：パネル展（土木の日）を開催する。新規 2 パネル + リニューアル 8 パネル
- 7) H27. 6：記念誌を発刊する。

## II. コンクリート研究委員会（昭和 29 年 12 月設立 会員 266 名）

（委員長 上田多門、副委員長 廣川誠一、平野陽彦、花田真吉、事務局長 工藤浩史）

### 1. 平成 25 年度事業報告

#### 【運営に関する常設委員会】

#### 1-1 企画小委員会（委員長 上田 多門）

##### 1) 委員会活動について

役員の改選および名簿見直し

#### 1-2 技術情報小委員会（小委員長 京田 隆一）

##### 1) 見学会

一般および学生を対象とした見学会を開催した。

開 催：北海道土木技術会コンクリート研究会とダム工学会の共同開催

日 時：平成 25 年 10 月 2 日（水）

見学場所：新川さくら並木橋・豊平峡ダム・定山溪ダム

参加者：91 名

北海学園大学 74 名（引率者を含む）、一般参加者 17 名

##### 2) 土木の日協賛「パネル展」平成 24 年 11 月 18 日（月）～11 月 19 日（火）

展示パネル：委員会代表パネル（W1500×H900）1 枚

個別展示パネル（W550×H850）6 枚

クイズ：(Q) 現存する北海道最古のダムはどこでしょう？

A1. 奥新冠ダム A2. 千歳第三ダム A3. 笹流ダム

##### 3) 主催した講演会

平成 25 年度 技術講演会

日 時：平成 25 年 10 月 28 日（月）13:30～17:00

場 所：ホテル 札幌ガーデンパレス

参加者：135 名

基調講演：『コンクリート構造物の「強靱化」』

北海道大学大学院工学研究院 環境フィールド工学部門

環境機能マテリアル工学研究室 教授 杉山 隆文様

個別講演 1：『新しい補修材料 補修用ポリマーセメントモルタルとその二次製品を活用した提案』

(株) 南組 保守維持事業部次長 南 真樹様

個別講演 2：『PC グラウト充てん不足部補修工法 -リパッシブ工法-』

(株) ピーエス三菱技術本部技術部部長 石井 浩司様

個別講演 3：『橋脚の新しい耐震補強 -ピアーフレ工法-』

オリエンタル白石 (株) 東京支店施工技術部課長 岩澤 啓介様



#### 1-3 国際交流奨学小委員会（小委員長 井上 雅弘）

平成 25 年度は国際交流 A 2 件、国際交流 B 1 件、国際交流 C 1 件の助成を行った。

#### 1-4 コンクリート先端技術教育小委員会（小委員長 工藤 浩史）

道内の土木工学系の学生に PC 技術あるいは PC の先端技術についてセミナーを開催。

・苫小牧高専（廣川一巳准教授、6 月 25 日、7 月 9 日 40 名参加）

- ・北海道大学 (佐藤靖彦准教授、 10月30日、1月15日 48名参加)
- ・北海道工業大学 (白石悟教授、 12月10日、12月17日 13名、10名参加)
- ・室蘭工業大学 (菅田紀之准教授、 11月18日 50名参加)
- ・函館高専 (澤村秀治准教授、 12月13日 33名参加)
- ・北海学園大学 (高橋義裕教授、 12月11日 52名参加)
- ・北見工業大学 (井上真澄准教授、 2月4日 62名参加)

1-5 インターネット小委員会 (小委員長 志村 和紀)  
 コンクリート研究委員会の活動、行事などの情報をタイムリーに発信。  
 HPの維持管理及び内容更新。

1-6 技術支援小委員会 (小委員長 工藤 浩史)  
 平成25年度は、支援要請なし。

【コンクリート技術に関する常設委員会】

1-7 コンクリート橋小委員会 (小委員長 村上 睦)  
 写真集「北海道のコンクリート橋第6集」の発刊に向けた活動。

1-8 設計仕様小委員会 (小委員長 村上 睦)  
 活動なし。

1-9 コンクリート防災施設小委員会 (小委員長 松久 浩)  
 休止中。

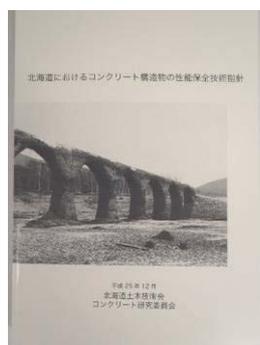
1-10 コンクリート維持管理小委員会 (小委員長 村上 睦)  
 コンクリート維持管理小委員会は、北海道内のコンクリート構造物の効率的な維持管理と長寿命化を図ることを目的として、地域的な特性を考慮した点検・診断および補修・補強に関する技術開発、これらに従事する技術者の養成や技術力の向上を目指して、平成18年度より常設小委員会として活動を行っている。また、平成21年度より、平成17年度に発刊した「北海道におけるコンクリート構造物維持管理の手引き(案)」の改訂作業に着手し、その成果として平成25年12月に「北海道におけるコンクリート構造物の性能保全技術指針」を発刊し、合わせて講習会を開催した。

講習会名：「北海道におけるコンクリート構造物の性能保全技術指針」発刊に伴う講習会

日 時：12月13日(金) 15時30分～17時35分

場 所：北海道大学学術交流会館(2階講堂)

参加人数：146名



発刊した技術指針の表紙および講習会の開催状況

【コンクリート技術に関する期間限定委員会】

1-11 劣化したコンクリート構造物の構造性能評価研究小委員会 (小委員長 佐藤 靖彦)  
 本委員会は、鉄筋コンクリートの本質的な挙動を知るとともに、材料劣化がコンクリート構造物の構造性能に及ぼす影響について、その評価を可能とする技術や知識を習得することを目的としている。

平成 19 年度からの約 2 年間は、「材料劣化を考慮した構造性能評価に関する研究会」として材料劣化が生じたコンクリート構造物の性能評価技術の現状を理解し、また構造解析技術を利用するために必要な知識を習得することを目的として活動を行ってきた。当初の目的を概ね達成し、委員会としての活動を行うための下地が整ったものと判断して、平成 22 年度より委員会として活動を行っている。

(1) 第 1 回全体委員会

日 時：平成 26 年 1 月 23 日 (木) 14:30 ～ 17:30

場 所：株式会社開発工営社

出席者：14 名

(2) 第 2 回全体委員会

日 時：平成 26 年 4 月 28 日 (月) 14:00 ～ 17:00

場 所：株式会社開発工営社

出席者：21 名

1-1-2 超高強度繊維補強コンクリートに関する小委員会 (小委員長 上田 多門)

北海道固有の条件下において、「コスト低減」、「耐久性向上」を実現可能な材料の一つとして超高強度繊維補強コンクリートを取り上げ、平成 23 年度には設計仕様小委員会のワーキンググループとして情報収集、適用性の検討等を行った。平成 24 年度は小委員会として橋梁の試設計および UFC の利点を見いだせる適用構造物の探求を行い、平成 25 年度はさらに深く多面的に実施した上で、成果物をまとめるべく活動を継続した。平成 26 年度は集大成の年として報告書作成業務を中心に進めていきたい。

(1) 第 1 回委員会

日 時：平成 25 年 6 月 3 日 (月) 15:00 ～ 17:00

場 所：北海道大学工学部 (A151 会議室)

議 題：・平成 25 年度の方向性とスケジュールについて

・第 1 WG の活動報告と討議：試設計橋梁形式の具体化等

・第 2 WG の活動報告と討議：UFC 適用に利点のある得る構造物一覧表作成

(2) 第 2 回委員会

日 時：平成 25 年 8 月 26 日 (月) 15:00 ～ 17:30

場 所：北海道大学工学部 (A151 会議室)

議 題：・第 1 WG：UFC 橋梁の設計上の技術的課題を議論。比較対象としての鋼橋試設計。

・第 2 WG：UFC 適用可能性構造物一覧の内容をさらに追求

(3) 第 3 回委員会

日 時：平成 25 年 10 月 23 日 (月) 16:30 ～ 18:30

場 所：北海道大学工学部 (A151 会議室)

議 題：・スケジュールの見直しについて

・第 1 WG、第 2 WG それぞれの活動報告と討議

(4) 第 4 回委員会

日 時：平成 26 年 3 月 30 日 (月) 15:30 ～ 17:30

場 所：北海道大学工学部 (A151 会議室)

議 題：・第 1 WG、第 2 WG それぞれの活動報告と討議。LCC を具体的に討議

・報告書の構成と中身について討議

・今後のスケジュールについて

・UFC の最近の話題提供

## 2. 平成 26 年度事業計画

(委員長 上田 多門、副委員長 廣川 誠一・岸 純太郎・花田 真吉、事務局長 工藤 浩史)

1 運営に関する委員会（常設）	
企画小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動活性化に向けた企画</li> <li>・講演会、見学会、土木の日協賛事業の企画</li> </ul>
技術情報小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会、見学会（一般、学生）、土木の日協賛事業の運営</li> </ul>
国際交流奨学小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流に係わる「学生・国際会議助成」の募集</li> <li>・国際交流小委員会活動の活性化</li> </ul>
コンクリート先端技術教育小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC セミナーの実施（道内 5 大学、2 高専）</li> </ul>
インターネット小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP の維持管理、更新</li> </ul>
技術支援小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道開発局への支援</li> </ul>
2 コンクリート技術に関する委員会（常設）	
コンクリート橋小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道のコンクリート橋」第 6 集の発刊</li> </ul>
設計仕様小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H24 道示を見据えた WG 活動</li> </ul>
コンクリート防災施設小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当面、活動休止</li> </ul>
コンクリート維持管理小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁マネジメントセミナー講師</li> <li>・維持管理の手引き発刊</li> </ul>
3 コンクリート技術に関する委員会（期間限定）	
劣化したコンクリート構造物の構造的評価研究小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会の開催</li> <li>・中間報告書作成・公開</li> </ul>
超高強度繊維補強コンクリートに関する小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動報告書作成</li> <li>・活動成果の発表会開催</li> </ul>
北海道における構造設計研究小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会開催</li> </ul>
産業副産物起源のコンクリート用混和材に関する積雪寒冷地利用技術研究小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例集集</li> <li>・委員会開催</li> </ul>
60 周年事業実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会</li> <li>・記念講演会</li> <li>・その他記念事業企画</li> </ul>

### Ⅲ. 舗装研究委員会（昭和 55 年 5 月設立、委員数 122 名）

（委員長 武市靖、副委員長 亀山修一、種綿順一、幹事長 木村孝司、事務局長 村澤邦光）

#### 1. 平成 25 年度事業報告

##### 1-1 会議

###### 1) 第 33 回通常総会（出席数 53 名）

日時：平成 25 年 6 月 5 日（水）14:30～

場所：ジャスマックプラザホテル 5F ザナドゥ

議題：・平成 24 年度 事業報告  
・平成 24 年度 会計報告及び監査報告  
・平成 25 年度 事業計画（案）及び収支予算（案）

###### 2) 講演会及び活動報告会（出席数 56 名）

日時：平成 25 年 6 月 5 日（水）15:05～

場所：ジャスマックプラザホテル 5F ザナドゥ

講演及び活動報告

1. 「北海道における道路の保全」
2. 各小委員会 活動報告

##### 1-2 幹事会

###### 1) 第 1 回 平成 25 年 5 月 7 日（火）出席者 20 名

- (1) 役員の変更について
- (2) 平成 24 年度 各小委員会の活動報告等について
- (3) 第 33 回通常総会等について
- (4) その他

###### 2) 第 2 回 平成 25 年 12 月 11 日（水）出席者 17 名

- (1) 会員の変更について
- (2) 平成 25 年度 各小委員会の活動報告等について
- (3) その他

###### 3) 第 3 回 平成 26 年 3 月 19 日（水）出席者 17 名

- (1) 役員の変更について
- (2) 平成 25 年度 各小委員会の活動報告等について
- (3) 第 34 回通常総会の日程について
- (4) その他

##### 1-3 小委員会活動

###### 1) 技術基準小委員会（委員長 熊谷政行、副委員長 蜜石修、山本健一）

(1) 委員会の開催なし

###### 2) 講演講習小委員会（委員長 長屋弘司、副委員長 亀山修一、後藤明雄）

(1) 北3条広場木塊舗装保全活用の検討

①試験施工の立会(補修材料、工法の検討) 平成 25 年 5 月 29 日(木)

②木塊舗装保全工事の視察(健全度の判定、補修範囲) 平成 25 年 6 月 25 日(火)

(2) 現場見学会

[木塊舗装保全工事]

日 時：平成 25 年 7 月 24 日(水) 14:00～15:30

場 所：札幌市中央区北 3 条西 4 丁目(北 3 条広場)

参 加：46 名

(3) 土木の日パネル展への参加

[土木の日パネル展 2013]

日 時：平成 25 年 11 月 18 日(火)・19 日(水)(2 日間)9:00~18:00

場 所：札幌駅 北口西コンコース イベント広場

観覧者数	： 11 月 18 日(月)	入場者	577 名	クイズ参加者	258 名
	11 月 19 日(火)	”	720 名	”	320 名
	2 日間合計	”	1,297 名	”	578 名

(4) 講習会支援

[舗装路面のテクスチャとすべりに関する講習会]

主 催：(公社)土木学会 舗装工学委員会

日 時：平成 26 年 2 月 21 日(金) 13:30~16:10

場 所：寒地土木研究所 1 階講堂

3) 技術史料収集小委員会(委員長 佐々木博志、副委員長 佐々木寿彦、本田 俊)

(1) 史料収集整理活動

- ①技術史料収集データベースを 2013 年版に更新
- ②電子資料管理プログラム「SIRYO2010」の収録 DVD と説明書の作成
- ③各種史資料の収集と電子化作業の実施

(2) 北海道舗装史電子版

- ①舗装研究委員会ホームページに掲載

(3) 木塊舗装

- ①「土木の日パネル展」に木塊とパネルを展示

4) 軽交通舗装小委員会(委員長 浜井三樹也、副委員長 倉本秀明、佐藤 巖)

- (1) 軽交通舗装の補修指針を改定するため、原稿をまとめたが、道路協会、開発局、札幌市等から類似の指針等が発刊されたので、これらの指針等に基づき「軽交通舗装の維持管理に関する参考資料」を作成するために「軽交通舗装の補修指針」の検討を中断している。

(2) 委員会開催日

第 1 回 平成 25 年 9 月 27 日(金)

第 2 回 メールで情報交換

5) 舗装マネジメントシステム小委員会(委員長 川村彰、副委員長 種綿順一、丸山記美雄)

- (1) 北見市市道における IRI 測定及び釧路市道における IRI 調査データ整理解析作業を行った。

(2) 委員会の開催はなし

6) コンクリート舗装小委員会(委員長 亀山修一、副委員長 松久浩、種綿順一)

(1) 現地見学会の開催

- ①施工後 60 年経過した既設コンクリート舗装の調査状況(平成 25 年 8 月 22 日)  
一般国道 5 号札幌市手稲区富丘地区
- ②早期交通解放型コンクリート舗装(1day Pavé)の施工(平成 25 年 10 月 15 日)  
太平洋セメント(株)小樽サービスステーション構内
- ③DG 工法による既設コンクリート舗装の粗面化施工(平成 25 年 11 月 14 日)  
一般国道 231 号石狩市厚田区太島内トンネル
- ④明かり部における新設コンクリート舗装の施工(平成 25 年 11 月 21 日)  
一般国道 231 号石狩市浜益区送毛地区 ※雨天中止

(2) 委員会の開催

- ①第1回小委員会（平成25年7月18日）
  - ・役員選出、役割分担について
  - ・H25活動計画について
- ②第2回小委員会（平成25年9月20日）
  - ・勉強会の開催  
「コンクリート舗装の設計と補修」  
一般社団法人 セメント協会 舗装技術専門委員会 委員長  
東京農業大学 生産環境工学科 教授 小梁川 雅 氏

## 2. 平成26年度事業計画

- 1) 技術基準小委員会（委員長 木村孝司、副委員長 山下宏治、斎藤昌之）
  - (1) 舗装の技術基準に関する課題の把握及び技術的検討
  - (2) 技術基準の最近の動向に関する情報交換及び会員への提供
- 2) 講演講習小委員会（委員長 長屋弘司、副委員長 亀山修一、後藤明雄）
  - (1) 各種舗装関連講演会等の共催参加、支援
  - (2) 現場見学会の実施
  - (3) 土木の日パネル展2014への参加
  - (4) 関連書籍の販売促進
- 3) 技術史料収集小委員会（委員長 佐々木博志、副委員長 佐々木寿彦、本田 俊）
  - (1) 電子資料管理プログラム「SIRYO2010」の活用と史料収集整理の継続
  - (2) 各種史資料の電子版作成についての検討
  - (3) 北海道の土木遺産等史資料のまとめとパネルの作製
- 4) 軽交通舗装小委員会（委員長 渡辺 亮、副委員長 佐藤智昭、佐藤 巖）
  - (1) [軽交通舗装の施行と補修指針]を、軽交通舗装道路を主体とした札幌市の「道路を維持管理するための手引き」を基本に道路協会、開発局の資料を参酌して、現社会体制に対応した合理的な維持作業ができるように内容を簡単に纏めて[軽交通舗装維持管理の手引き]を発刊する。  
内容の検討には、広く意見をまとめるために、【ワーキンググループ】を設置する。
- 5) 舗装マネジメントシステム小委員会（委員長 川村彰、副委員長 種綿順一、丸山記美雄）
  - (1) 北見市及び釧路市道におけるIRI調査データ報告他、他の地方自治体を対象とした活動を継続予定。
- 6) コンクリート舗装小委員会（委員長 亀山修一、副委員長 甲斐 明、種綿順一）
  - (1) 「(仮)北海道におけるコンクリート舗装の設計・施工の手引き」の策定に向けた分科会活動を予定
  - (2) 現場見学会、勉強会の開催

#### IV. トンネル研究委員会（昭和60年11月設立 会員236名）

（委員長 藤井義明、副委員長 廣川誠一、岸純太郎、菊池秀二  
幹事長 蟹江俊仁、事務局長 荒木雅紀）

##### 1. 平成25年度事業報告

##### 1-1 技術小委員会

##### 1) TMS分科会

##### (1) トンネルのロングライフ化に関する研究

- ・劣化度を知るための基礎資料収集
- ・覆工コンクリートの施工方法資料収集
- ・システムの具体化に向けた検討

##### (2) 新素材断熱材（ノンフロン）に関する研究

- ・本採用現場における、施工状況等の検証実施

##### (3) 内部断熱材の算定式検証（適時）

- ・今年度 収集実績無し

##### 2) NATM分科会

##### (1) NATMに関する資料の収集

##### (2) 北海道のトンネルに関連する論文の収集

##### 3) トンネル21分科会

##### (1) 新技術・新工法 会報の紹介（54号、55号への掲載）

##### (2) 北海道の道路トンネル第5集（2008～2012 供用）準備

- ・既竣工トンネルのデータ収集、施工記録台帳のチェック

##### 4) その他

- ・今後の各分科会の編成および活動方針の検討

##### 5) 会議

##### (1) 小委員会：1回（事務局会議等含む）

##### (2) TMS分科会：2回（現場見学会1回）

##### (3) NATM分科会：1回、論文収集WG4回

##### (4) トンネル21分科会：1回

##### (5) 活動報告会：1回

##### (6) トンネル技術に関する講演会：1回（平成25年9月20日） 参加者 45名

「トンネル工学に関する最近の話題」京都大学大学院 朝倉 俊弘教授

「トンネル背面空洞充填工法（SR工法）の概要」SR協会 橋本 泰男

「近年のトンネル技術動向（調査・施工から維持管理まで）」鹿島建設(株) 山本 卓治

##### 1-2 講習講演小委員会

##### 1) 現地見学会

・日 時：平成25年10月10日(木)

・場 所：北の峰トンネル新設工事

(鹿島・三井住友・荒井 特定建設工事共同企業体)

トンネル延長 L=2,913m

ウォータータイト区間などの施工区間を見学

・参加者数：65名

##### 2) 土木の日

・日 時：平成25年11月18日(月)～19日(火)



会報 第54号



北海道の道路トンネル第4集

(発刊済み)

- ・場 所 : JR 札幌駅北口西コンコース イベント広場
- ・テ ー マ : 「北の暮らしを支える土木技術」(7 研究委員会合同)
- ・内 容 : パネル展示, パネルクイズなど

### 3) 2014 トンネル技術研究発表会

- ・日 時 : 平成 26 年 2 月 28 日 (金) 10:00~17:00
- ・場 所 : 北海道大学学術交流会館
- ＊特別講演 : 「もしアイドルグループがトンネル掘削ずりの『マネジメント』をしたら:  
サイト概念モデルによる評価と国内での実施例」オハイオ州立大学 地質  
科学科北海道大学 工学研究院 環境循環システム部門 茨木 希
- ＊研究発表 : 7 編
- ＊参加人数 : 発表会 172 名 意見交換会 143 名 (実績数)

### 4) 会 議

- (1) 小委員会 : 2 回
- (2) 幹事会 : 1 回

## 1-3 地方小委員会

### 1) 札幌地区委員会

平成 25 年 10 月 18 日(金) 参加人員 36 名(小樽地区との共同開催)  
現場見学会 : 道道西野真駒内清田線 (こばやし峠) トンネル新設工事

### 2) 小樽地区委員会

平成 25 年 10 月 18 日(金) 参加人員 36 名(札幌地区との共同開催)  
現場見学会 : 道道西野真駒内清田線 (こばやし峠) トンネル新設工事

### 3) 函館地区委員会

平成 26 年 3 月 19 日(水) 参加人員 19 名  
函館地区トンネル委員会の勉強会・意見交換会 1 回、幹事会(函館) 2 回

### 4) 室蘭地区委員会

平成 25 年 10 月 18 日 (金) 参加人員 44 名  
トンネル勉強会 : 1. 清水建設(株) 「球面切羽によるトンネル掘削」、2. オリカジャパ  
ン(株) 「次世代 電子雷管 eDEV II」、3. 日本工機(株) 「新型ガンサイザー」、4. (株)  
熊谷組 「メルクンナイトンネル 施工報告」

### 5) 旭川・稚内・留萌・網走地区委員会

平成 25 年 10 月 10 日(木) 参加人員 11 名(講習講演小委員会と共同開催)  
現場見学会 : 富良野道路(地域高規格道路旭川十勝道路) 北の峰トンネル新設工事

### 6) 帯広・釧路地区委員会

平成 26 年 2 月 13 日(木) 参加人員 16 名  
現場見学会 : 一般国道 336 号 広尾町 新宝浜トンネル北工事

### 7) 事務局会議 : 1 回

## 1-4 事務局

- 1) 出納事務
- 2) 会報編集・発行 会報第 54 号、第 55 号編集・発行
- 3) 常任委員会 2 回開催 平成 25 年 5 月 30 日 (木)、平成 26 年 1 月 30 日 (木)
- 4) 定期総会 平成 25 年 6 月 7 日 (金)
- 5) 企画運営会議 平成 26 年 1 月 14 日 (火)
- 6) ホームページ管理 URL <http://www.ejsd.net/tunnel/>

- 7) インバートライブラリー発刊に伴う講習会 平成 25 年 12 月 5 日 (木)  
主催：土木学会トンネル工学委員会、後援：北海道土木技術会トンネル研究委員会

## 2. 平成 26 年度事業計画

### 2-1 技術小委員会

#### 1) TMS 分科会

- (1) トンネルのロングライフ化に関する研究
  - ・劣化度を知るための基礎資料収集
  - ・システムの具体化に向けた検討
- (2) 新素材断熱材（ノンフロン）に関する研究
  - ・ノンフロン断熱材の実勢における問題点の検証
  - ・新フロン断熱材の情報あり（JIS：平成 28 年度）のため、資料収集
- (3) 内部断熱材の算定式検証
  - ・データの追加による算定式の検証（適時）

#### 2) NATM 分科会

- (1) NATM に関する資料の収集
- (2) 北海道のトンネルに関連する論文の収集

#### 3) トンネル 21 分科会

- (1) 新技術・新工法の紹介（トンネル会報第 56 号、57 号への掲載）
- (2) 北海道の道路トンネル第 5 集(2008-2012 供用)準備
  - ・トンネルの施工記録台帳のチェック、地質縦断図等の編集作業

#### 4) その他

- ・今後の各分科会の編成および活動方針の検討

#### 5) 会 議

- (1) 小委員会：2 回予定
- (2) TMS 分科会：2 回予定
- (3) NATM 分科会：2 回予定
- (4) トンネル 21 分科会：2 回予定
- (5) 活動報告会：1 回予定
- (6) トンネル技術に関する講演会：1 回予定（平成 26 年 9 月 12 日）

### 2-2 講習講演小委員会

- 1) 現地見学会 日時・場所・内容は未定
- 2) 土木の日 日時・場所・内容は未定
- 3) 2015 トンネル技術研究発表会 日時場所・内容は未定

#### 4) 会 議

- (1) 小委員会：3 回予定
- (2) 幹事会：1 回予定

### 2-3 地方小委員会

- 1) 札幌地区委員会：現場見学会 小樽管内トンネル新設工事(予定)、小樽地区と合同開催  
平成 26 年 9 月～10 月予定
- 2) 小樽地区委員会：現場見学会 小樽管内トンネル新設工事(予定)、札幌地区と合同開催  
平成 26 年 9 月～10 月予定

- 3) 函館地区委員会：現場見学会 見学場所未定、平成 26 年 6 月下旬予定  
講演・勉強会 場所未定、平成 27 年 3 月予定
  - 4) 室蘭地区委員会：勉強会 場所、実施時期未定
  - 5) 旭川・稚内・留萌・網走地区委員会：現場見学会 見学場所、実施時期未定
  - 6) 帯広・釧路地区委員会：現場見学会 見学場所、実施時期未定
  - 7) 事務局会議： 2 回程度予定
- ※各地区共通事項：現場数が減少しているため複数地区での共同開催も検討、勉強会題材として「在来工法」を取り上げ

## 2-4 事務局

- 1) 出納事務
- 2) 会報編集・発行： 施工中のトンネルリストの作成、会報第 56、57 号の編集・発行
- 3) 常任委員会： 2 回予定
- 4) 定期総会
- 5) 企画運営会議： 1 回予定
- 6) ホームページ管理
- 7) その他：事業計画外の対応 等

## V. 道路研究委員会（昭和 29 年 6 月設立、個人会員 59 名、賛助会員 50 社）

（顧問：佐藤 馨一、中辻 隆

委員長：萩原 亨、副委員長：柳原優登・天野博己、幹事長：石田 樹、事務局長：小林正明）

### 1. 平成 25 年度事業報告

#### 1-1 調査研究

以下の調査研究成果を賛助会員に配布

- 1) (独)土木研究所寒地土木研究所：『寒地道路研究グループ研究成果集』（目次のみ配布）
- 2) 交通安全 WG：『北海道の除雪体制の効率化に関する研究』報告書
- 3) 道路管理 WG：『移動時間信頼性向上による便益推計に関する研究』報告書

#### 1-2 講習・講演会

##### 1) 講演会・総会時『北海道における今後のインフラマネジメントを考える』

- ・日 時：平成 25 年 6 月 7 日（金） 参加者：60 名
- ・場 所：TKP ガーデンシティ札幌きょうさいサロン
- ・主 催：北海道土木技術会 道路研究委員会

##### (1) 『岐阜県の維持管理戦略』

講演者：岐阜大学工学部社会基盤工学科 教授  
社会資本アセットマネジメント技術研究センター  
総合リスクマネジメント技術研究室 室長 倉内 文孝氏

##### (2) 『近年の気象特性と道路災害』

講演者：日本気象協会北海道支社 防災対策室 室長 松岡 直基氏



図 講演会の様子

2) 講演会『交通工学研究会 第7回シンポジウム「道路計画と設計のあり方」～いまこそ問われる道路の機能と性能～』

- ・日 時：平成25年11月26日(火) 13:30～17:10 参加者：126名
- ・場 所：ホテル札幌ガーデンパレス 2階 白鳥
- ・主 催：(一社)交通工学研究会
- ・後 援：(独)土木研究所寒地土木研究所、北海道土木技術会道路研究委員会、(公社)土木学会

(1) 基調講演『北海道の道路ネットワークの現状と課題』

講演者：北海道大学大学院工学研究院 北方圏環境政策工学部門 教授 田村 亨氏

(2) 講演『基幹研究課題での取り組み内容と目的』

講演者：(株)道路計画 野中 康弘氏

(3) パネルディスカッション『これからの道路計画・設計の目指すべきところとは?』

司 会： 秋田大学 浜岡 秀勝氏

パネリスト：国土技術政策総合研究所 高宮 進氏

寒地土木研究所 浅野 基樹氏

(株)ドーコン 奈良 照一氏

国際航業(株) 阿部 義典氏

日本大学 下川 澄雄氏



図 講演会の様子

3) 講演会『第37回寒地道路連続セミナー「吹雪災害の減災に向けた取り組み」』

- ・日 時：平成25年11月27日(水) 14:00～16:30 参加者：70名
- ・場 所：寒地土木研究所 講堂
- ・主 催：(独)土木研究所寒地土木研究所
- ・共 催：北海道土木技術会 道路研究委員会

(1) 講演『吹雪災害のしくみと減災』

講演者：NPO法人 雪氷ネットワーク 理事 竹内 政夫氏

(2) 講演『気象情報の活用について』

講演者：札幌管区气象台 気象防災部予報課 予報官 中島 康志氏

(3) 講演『吹雪の視界情報の提供試験』

講演者：(独)土木研究所寒地土木研究所 雪氷チーム 主任研究員 金子 学氏

(4) 講演『車両周りの積雪が車内CO濃度に与える影響』

講演者：(独) 土木研究所寒地土木研究所 寒地機械技術チーム 研究員 山崎 貴志氏

1-3 定期総会

日時：平成25年6月7日(金) 15:10~15:40

場所：TKP ガーデンシティ札幌きょうさいサロン

議題：平成24年度事業報告・会計報告、平成25年度事業計画・予算

1-4 委員会等

1) 委員会(平成25年6月7日(金) 14:30~15:00) TKP ガーデンシティ札幌きょうさいサロン

2) 幹事会 計1回開催

1-5 “土木の日”協賛事業

1) 日程・場所：平成25年11月18日(月)~19日(火)

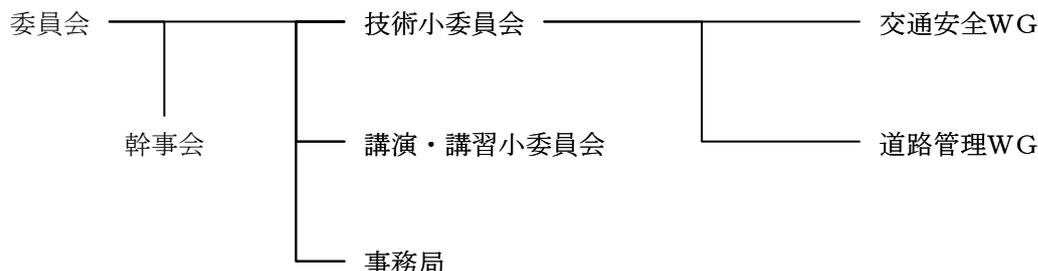
JR札幌駅北口西コンコース イベント広場

2) 道路研究委員会の展示分

出展会員	展示品
札幌市	・道路の維持管理 ・歩道のバリアフリー整備
東日本高速道路	・北海道横断自動車道
札幌総合情報センター	・安全な雪かきの心得 ・転倒事故の現状
岩崎	・CIMの取り組み

## 2. 平成 26 年度事業計画

### 2-1 組織



### 2-2 調査研究

#### 1) 交通安全 WG

<テーマ> 「道路の重要度を考慮した北海道の除雪体制の効率化に関する研究」

- ・北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門 准教授 岸 邦宏 氏
- ・ (独) 土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 寒地交通チーム

#### 2) 道路管理 (持続可能性検討) WG

<テーマ> 「移動時間信頼性向上による便益推計に関する研究」

- ・北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門 准教授 内田 賢悦 氏
- ・ (独) 土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 寒地交通チーム

<テーマ> ※必要に応じて 「今後の道路維持管理に関する勉強会」

- ・道路研究委員会 幹事・事務局メンバー等
- ・ (独) 土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 寒地交通チーム

### 2-3 講習・講演会 (年間計画：年 3～4 回程度の講習・講演会開催予定)

- ・まとめ役：(一社) 北海道開発技術センター 調査研究部 調査第二部長 大川戸 貴浩 氏
- ・メンバー：北海道大学大学院 工学研究院 北方圏環境政策工学部門 准教授 岸 邦宏 氏  
(独) 土木研究所 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ 寒地交通チーム  
総括主任研究員 高橋 尚人 氏  
(株) ドーコン交通部 部長 小林 正明 氏

### 2-4 “土木の日” 協賛事業等

- ・まとめ役：(株) ドーコン防災保全部 担当次長 内藤 利幸 氏

※平成 26 年度 道路研究委員会 役員交代

- ・副委員長：前川 寿清
- ・委員：河上 聖典、三木 雅之、久保 敏哉、浜井 三樹也、相馬 和則、坂巻 俊次、吉田 隆

※平成 25 年度をもって退会した賛助会員：1 会員 (平成 26 年度 賛助会員 49 社)

## VI. 土質基礎研究委員会（昭和40年1月設立 会員324名、賛助会員93社）

（委員長 田中洋行、 副委員長 木幡行宏、西本聡、峯田一彦  
幹事長 山梨高裕、事務局長 佐野弘毅）

### 1. 平成25年度事業報告

#### 1-1 事業小委員会（小委員長 峯田一彦、幹事 左近利秋）

- 1) 講演会（総会時）『廣井先生のこと』：主催
  - ・講演者：北海道開発技術センター 主任研究員 原口 征人 氏
  - ・日 時：平成25年5月29日 参加者63名
  - ・場 所：KKR ホテル札幌
- 2) 講習会『地盤改良セミナー 土を固めるセメント系固化材』：主催
  - ・日 時：平成26年2月26日 参加者117名
  - ・場 所：KKR ホテル札幌
  - ・共 催：(独)土木研究所 寒地土木研究所、(社)セメント協会
- 3) 講習会『=新しいジェットグラウト=地盤改良技術講習会』：共催
  - ・日 時：平成25年9月11日 参加者106名
  - ・場 所：TKP 札幌カンファレンスセンター
  - ・主 催：V-JET 協会（共催：MITS 工法協会、WILL 工法協会）
- 4) 講習会『地盤調査の方法と解説講習会』：共催
  - ・日 時：平成25年10月17日 参加者61名
  - ・場 所：札幌コンベンションセンター
  - ・主 催：地盤工学会 北海道支部
- 5) 講習会『地盤改良の調査・設計と施工 一戸建住宅から人工島まで』：共催
  - ・日 時：平成26年2月20日 参加者49名
  - ・場 所：札幌コンベンションセンター
  - ・主 催：地盤工学会 北海道支部
- 6) 土木技術海外研修
  - ・日 時：平成26年1月24～31日 参加者8名
  - ・場 所：台湾、フィリピン

#### 1-2 技術小委員会（小委員長 小野丘、幹事 日下部祐基）

- 1) 第1回技術小委員会会議（寒地土木研究所 会議室）
  - ・日 時：平成25年5月7日
  - ・第12回技術報告会のテーマについて検討した。  
（「寒冷地特有の問題と対策」に決定）
  - ・勉強会を開催した。  
（日下部幹事：「写真計測技術を活用した斜面点検手法」）
- 2) 第2回技術小委員会会議（開発工営社 会議室）
  - ・日 時：平成25年9月24日
  - ・第12回技術報告会について、原稿募集依頼などについて検討した。
  - ・勉強会を開催した。  
（対馬委員：「盛土防災点検」）

3) 第3回技術小委員会会議（和光技研 会議室）

- ・日 時：平成 25 年 12 月 6 日
- ・第 12 回技術報告会について、役割分担等を検討確認した。
- ・Q&A 追加補強版についてテーマ分類を検討した。
- ・勉強会を開催した。

（西村委員：「盛土の品質管理」）

4) 第 12 回技術報告会（札幌 北大学術交流会館）

- ・日 時：平成 26 年 2 月 14 日 参加人数 102 名
- ・テーマ：「土質基礎に関する寒冷地特有の問題と対策技術報告会」
- ・基調講演（「凍上対策のための n 年確率凍結指数の決定法とその地域特性」（北海道工業大学 川端 伸一郎先生））と 5 編の論文発表

1-3 調査研究小委員会（小委員長 石川達也、幹事 福島宏文）

1) 地盤工学に関する技術展示

- ・日 時：平成 25 年 11 月 18 日・19 日
- ・JR 札幌駅北口西コンコース イベント広場
- ・土木の日パネル展示の企画運営を実施した。

2) 地盤工学に関する調査研究

- ・凍上分科会：パネル展で凍上に関する展示を実施。
- ・北海道地盤情報データベース Ver.2003 のフォローアップを実施。  
（地盤情報分科会）

1-4 事務局活動

1) 幹事会（北海道大学 会議室）

- ・日 時：平成 25 年 5 月 22 日
- ・平成 24 年度事業報告および平成 25 年度事業計画について
- ・新役員および小委員会委員について

2) 定期総会、講演会および懇親会（平成 25 年 5 月 29 日、KKR ホテル札幌）

3) その他

## 2. 平成 26 年度事業計画

### 2-1 事業小委員会（小委員長 峯田一彦、幹事 左近利秋）

- 1) 講演会（総会時）『インドネシアカリマンタン島の泥炭地調査』：主催
  - ・ 講演者：北海道工業大学名誉教授 神谷 光彦 氏
  - ・ 日 時：平成 26 年 5 月 27 日
  - ・ 場 所：KKR ホテル札幌
- 2) 講習会『地盤改良セミナー 地盤を固めるセメント系固化材』：主催
  - ・ 日 時：平成 26 年 10 月
  - ・ 共 催：(社)セメント協会

### 2-2 技術小委員会（小委員長 小野丘、幹事 日下部祐基）

- 1) 土質基礎に関する技術検討
  - ・ 第 13 回土質基礎に関する技術報告会について、「維持・管理・点検」をテーマに企画開催する。
  - ・ 技術力研鑽のための勉強会および現場見学会を計画開催する。
- 2) Q&A 改訂版の検討
  - ・ Q&A 改訂版の発刊に向けた A（回答）作成方法を検討する。
- 3) その他
  - ・ ホームページ活性化等について検討する。

### 2-3 調査研究小委員会（小委員長 石川達也、幹事 福島宏文）

- 1) 地盤工学に関する技術展示
  - ・ 土木の日パネル展示 2014（平成 26 年 11 月、札幌市）  
（合同主催：北海道土木技術会 全 7 研究委員会）
- 2) 地盤工学に関する調査研究
  - ・ 分科会ごとに、地盤工学の最新技術に関する資料作成を行う
  - ・ 凍上分科会：技術資料（パネル）の作成
  - ・ 積雪寒冷地の地盤災害リスク分科会：技術資料（パネル）の作成
  - ・ 地盤情報分科会：北海道地盤情報データベース Ver.2003 のフォローアップ

### 2-4 事務局活動

- 1) 幹事会（北海道大学 会議室）
  - ・ 日 時：平成 26 年 5 月 20 日
  - ・ 平成 25 年度事業報告および平成 26 年度事業計画について
  - ・ 新役員および小委員会委員について
- 2) 定期総会、講演会および懇親会（平成 26 年 5 月 27 日、KKR ホテル札幌）
- 3) その他

## Ⅶ. 建設マネジメント研究委員会（平成13年11月設立 会員287名）

（委員長 高野伸栄、副委員長 和田忠幸、砂子邦弘、幹事長 倉内公嘉、事務局長 船山健次）

### 1. 平成25年度 事業報告

#### 1-1 会議等の開催

##### 1) 平成25年度通常総会の開催（参加会員数：88名）

日 時：平成25年6月6日(木) 14:30～

場 所：札幌アスペンホテル 「アスペンA」

##### 2) 講演会（通常総会と共催）（参加人数：94名）

「入札契約制度の歴史的考察」講師 愛媛大学 防災情報研究センター 教授 木下誠也 氏

日 時：平成25年6月6日(木) 16:00～17:30

場 所：札幌アスペンホテル 「アスペンA」

##### 3) 「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会・講演会

###### (1) 函館 道南建設二世会（参加人数：26名）

日 時：平成25年12月7日（土）14:30～17:30

場 所：函館建設業協会

###### (2) 帯広 二建会（参加人数：26名）

日 時：平成26年4月12日（土）15:00～18:00

場 所：ホテル日航ノースランド帯広

[内容] ①基調講演、②二世会からの事例紹介、③意見交換会

##### 4) 拡大常任委員会

日 時：平成26年5月16日

議 題 ①第14回（平成26年度）通常総会・講演会のスケジュール

②通常総会議案書（案）について

③小委員会の活動報告 その他

#### 1-2 各小委員会の活動

##### 1) 公共調達小委員会（小委員会の開催2回）

###### (1) H24アンケート結果の総括と今後の進め方について

・回答結果から、7つの環境変化について想定されるリスクとその対応案について体系的に整理

###### (2) H25のアンケートについて

・会員アンケートを実施、調査期間：H25. 9. 30～10. 11

・結果を踏まえ、今後は ①維持管理関連工事、②人材確保、のテーマについて今後検討

##### 2) 公共調達小委員会 総合評価WG（WGの開催2回）

(1) 住民参加型入札の普及・拡大に向けた検討の一貫で、岩見沢市役所への説明会を開催換

(2) 住民参加型入札の実践拡大を図るための市町村アンケートの実施

・アンケートの配布方法と宛先、集計方法等について、効率的な対応を検討

・アンケートの配布（H26. 5. 7）～現在取りまとめ中

##### 3) 公共調達小委員会 道路維持WG（WGの開催1回）

(1) 道路の維持管理をめぐる最近の動向について、全国的な動きと道内での動きを検証

(2) 受注環境の悪化、予算の縮小、地域を担う地元建設業の確保、地域の理解を得る入札方法、広報のあり方等を考慮し「安定的な維持除雪体制の確立に向けた方策」、「地域住民に信頼される調達方法」、「維持除雪事業における戦略的広報」の検討を実施

4) 民間活力推進小委員会（小委員会の開催3回、講演会開催1回）

- (1) 「函館圏の新高速交通体系とまちづくり」をテーマに各事業等の視察と意見交換を実施
- (2) 「PFI羽田空港国際線エプロン整備事業」の現況と課題について講演と意見交換を実施
- (3) 「冬季札幌オリンピックと札幌のまちづくり」について話題提供と意見交換を実施
- (4) 「東日本大震災早期復興に向けた東北地方整備局の取組」－事業促進PPPの講演会を開催 日時：平成26年1月22日、講師：東北地整 加藤信行氏（参加人数約90名）

5) 建設経営革新小委員会（小委員会開催2回）、講演会開催1回）

- (1) 建設業における再生エネルギービジネスについての事例研究
- (2) 技術者・技能工の確保育成について
  - ・北海道が道内の建設業協会に対して実施した「技術者の確保・育成に関するアンケート調査」の結果と今後の対応の検討と報告書の作成に関する一次案の取りまとめを行った
- (3) CIネットセミナーを開催 日時：平成25年8月29日  
講師：（一財）建設業振興基金 帆足弘治氏 他（参加人数：約40名）

6) 施工プロセス小委員会（小委員会開催2回）

- (1) ASPに関する課題の把握・検討
  - ・ASPに関する全国の動向等について、所属会員より報告、今後のASPの運用等について、受発注者アンケート調査結果に基づく課題抽出
- (2) 第三者品質証明の導入に係る情報提供
  - ・導入への課題：第三者認定機関の設置と独立性、品質証明内容の明確化と効率化、責任体制、など

7) アセットマネジメント小委員会（小委員会開催2回）

- (1) 橋梁長寿命化Q&A集の改訂版の増補作成
  - ・Q&Aの追加及び内容の見直し、過去のアンケートや既往成果を活用した回答を作成
  - ・HPでの閲覧を想定した見やすさについても検討し、閲覧画面の刷新を図ることとした。
- (2) 橋梁長寿命化Q&A集改訂版のPR策の検討
  - ・橋梁長寿命化Q&A集改訂版の特徴や内容を簡潔に説明したパンフレットを市町村に配布することとし、そのパンフレット案を検討した。

1-3 広報活動

ホームページの更新及び掲載。

（各小委員会活動状況の報告書、総会、講演会等の内容）

（2002年～2012年土木の日のパネル展資料を掲載）

1-4 「土木の日」協賛事業

北海道土木技術会主催の土木の日パネル展2013「北の暮らしを支える土木」（平成25年11月18日～19日 札幌駅北口西コンコースで開催）に当研究委員会のパネル展示。

建設マネジメント研究委員会として7枚のパネルを展示し、この機会を通じ、建設マネジメントのプロセスと建設マネジメント研究委員会の取組みを紹介した。

## 2. 平成26年度 事業計画

本委員会は建設マネジメントの研究を通じて、北海道における建設産業並びに建設技術の進展、技術者の育成を図ることを目的として以下の事業を行う。

### 2-1 総会等の開催

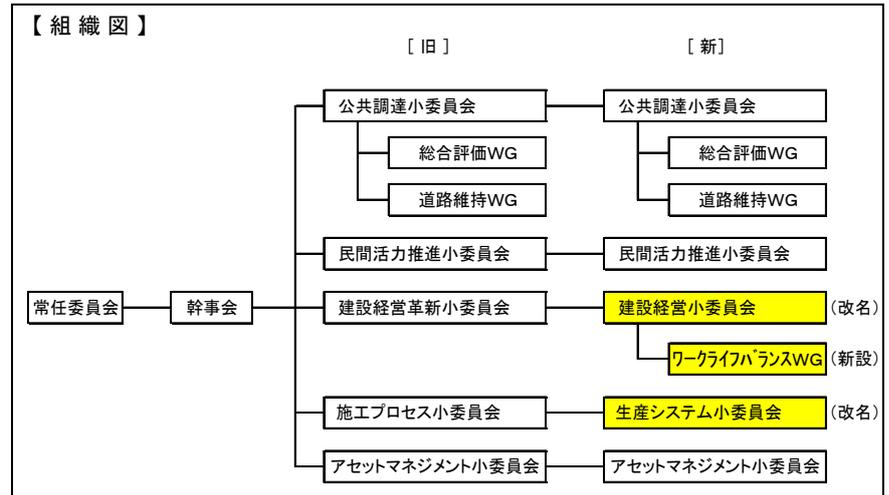
平成26年6月6日（金）に実施予定。

### 2-2 講演会の開催

平成26年6月6日（金）の総会後に実施するほか、年度内に適宜実施を検討。

### 2-3 各小委員会の事業計画

小委員会の改名と研究課題の見直し及び新たな研究への取組みとして、平成26年度は5つの小委員会と2つのワーキンググループによる研究に加え、新たに、建設経営小委員会（改名）にワークライフバランスワーキンググループを新設し（右図参照）以下の調査・研究を行う。



#### 1) 公共調達小委員会

平成24年度～25年度に実施した「公共調達のリスク体系化と今後の検討課題の絞り込み」に関する一連の会員アンケートで抽出した以下の課題について対応策の調査・研究を進める。

- (1) 維持管理関連事業について
- (2) 人材の確保について

#### 2) 公共調達小委員会 総合評価WG

- (1) 住民参加型入札に関する市町村アンケートの収集・分析
- (2) 市町村アンケートの分析結果に基づき、今後の対応を検討
- (3) 新たな総合評価落札方式の考察と抽出・検討

#### 3) 公共調達小委員会 道路維持WG

平成25年度までの議論・課題整理を踏まえ、以下の課題への対応への検討を進め、「安定的な維持除雪体制の確立に向けた方策」について提言としてまとめる。

- (1) 安定的な維持除雪体制の確立に向けた方策
- (2) 地域住民に信頼される調達方法
- (3) 維持除雪事業における戦略的広報のあり方

#### 4) 民間活力推進小委員会

民間資金や能力を活用する研究の一環として、以下の調査・研究を行う。

- (1) 東日本大震災復興事業における民間活力導入の調査・研究を継続する。
  - ・復興事業促進PPPの継続調査・研究
- (2) 国土交通省官民連携政策における道内での取組み（PPP/PFI）の可能性を研究する。
  - ・平成26年度PPP/PFI推進のための案件に関する調査・研究
  - ・PPP（民間活力事業）の先進事例の調査
- (3) 公共施設等総合管理計画の策定要請（総務省H26.4）に関する調査・研究を行う。

- ・地方公共施設の維持管理・更新に対する民間活力導入の検討調査
- ・道内自治体の取組状況調査

(4) 民間活力推進事業の視察を行う。

- ・先進的な事例箇所について視察調査の実施

5) 建設経営小委員会（建設経営革新小委員会から改名）

(1) 建設産業の担い手不足が深刻化し、若年者の確保・育成問題は全道の共通課題になっていることが、昨年度に実施した二世会との地域意見交換会の場においても浮き彫りになった。このため、小委員会の名称を「建設経営小委員会」に改名し、「北海道内における建設技術者・技能工の確保育成に係る取組み」に主眼をおいた調査・研究を進める。

(2) なお、建設業における再生エネルギービジネス、については、平成25年度に引き続き、事例研究を継続する。

6) 建設経営小委員会 ワークライフバランスWG（H26新設）

若者の勤労意識や職業観が大きく変わる一方、土木系女子（ドボジョ）の業界進出が期待されている。このため「ワークライフバランスWG」を立ち上げ、建設技術者・技能者への女性参画や、家庭と仕事の両立、職場環境の見直しなど、具体的な調査・検討を行う。WGメンバーは、単に女性のみを集めるのではなく、男性も含めた組織として幅広い議論を行い、女性や若者が定着できる就労環境の改善を提言していく。

7) 生産システム小委員会（施工プロセス小委員会から改名）

建設施工における生産性の向上や効率化についての調査・研究の一環として、現場管理の効率化・確実性向上への調査や、第三者品質証明の導入への課題、ASPに関する課題の把握・検討等に取り組んできたが、今後は受注者サイドの課題に力点を置くとともに、建設生産システム全般を俯瞰する調査活動を推進するため「生産システム小委員会」と改名し、新たなテーマの検討を進める。

8) アセットマネジメント小委員会

(1) 橋梁長寿命化Q&A集改訂版を確定させるとともに見やすさを勘案した表示に変更し公開する。

(2) 橋梁長寿命化Q&A集改訂版のPRパンフの作成し市町村に配布する。

(3) 社整審道路分科会における「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言（H26.4.14）」など最近の動向を鑑み市町村支援に向けた情報収集をさらに進める（例：全道自治体アンケート）。

2-4 地域建設産業活動の支援事業

建設産業が地域の活性化のために行っている諸活動の支援を行う。

本年度は数カ所の都市で地域建設産業との交流事業を行う。

2-5 広報活動

ホームページの充実と各小委員会の活動報告を掲載する。

2-6 土木の日協賛事業

北海道土木技術会の「土木の日パネル展」に協賛し、当委員会として参画する。パネルの選定・作製については、各小委員長が協議して、訴求力のある研究テーマを取り上げる。

2-7 その他

会員相互の交流を図る。

## 各 研 究 委 員 会 の ト ピ ッ ク ス

### I. 鋼道路橋研究委員会

#### 1. 現場見学会と技術講習会の開催

鋼道路橋研究委員会では、会員を対象とした現場見学会と技術講習会を毎年開催しております。本年度は、現場見学会は平成25年10月24日に行い、30名の参加がありました。また、技術講習会は平成25年11月1日に開催し、177名の参加がありました。

##### (1) 現場見学会

見学場所：北海道縦貫自動車道 士別市 中士別大橋 架設現場

参加者：30名

工事内容：中士別大橋 6径間連続細幅箱桁橋

360t吊トラッククレーン架設を用いたクレーンベント工法

作業半径を大きく取るため、ヘビーリフトを使用した架設が特徴的であった。



中士別大橋の現場説明の状況



架設現場の見学状況

現場の方々のご好意で、見学者が来るのを待って、主桁の架設を開始して頂きました。主桁の吊り上げから架設までを、一部始終見る事ができました。参加された方は、間近で見たことのある方が少なく、皆さん興味深々で見学されていました。貴重な体験をされたと思います。

なお、見学にあたり、北海道開発局旭川開発建設部士別道路事務所の監督員および榊鉤路製作所の職員のみなさまには大変親切なご説明とご協力を頂いたことを申し添えます。

## (2) 技術講演会

日 時：平成 25 年 11 月 1 日（金） 13:30 ～ 17:00

場 所：ホテルエーデルホフ札幌

出席者：171 名

本技術講習会は一般社団法人日本橋梁建設協会と共催で、特別講演に松井繁之大阪大学名誉教授をお迎えして実施しました。演目は「現場路査で視た橋梁の損傷とその原因診断と見るべき対策提案」であり、橋梁の老朽化対策及び長寿命化が、叫ばれる昨今の状況と符合した内容となっていました。また、日本橋梁建設協会から、以下の4編の技術発表がありました。1 番目の橋建協報告「いい橋つくろう」は、いい橋をつくり、どう長持ちさせていけばいいのかを述べたもので、今後の橋の設計、架設、維持管理の方向性を示すものでした。

演 題：

### 1) 橋建協報告【いい橋つくろう】

(一社)日本橋梁建設協会 橋梁技術発表会実行委員会 館 暢 氏

### 2) 技術発表 - 1【耐候性鋼橋梁の損傷分析とさび外観評価システムの提案】

(一社)日本橋梁建設協会 技術委員会 製作小委員会 杉山 幸一 氏

### 3) 技術発表 - 2【道路ネットワーク維持管理の必要性和鋼橋の更新時期について】

(一社)日本橋梁建設協会 保全委員会 保全第二部会 亀山 誠司 氏

### 4) 技術発表 - 3【船舶衝突による合成桁斜張橋の損傷と補修】

(一社)日本橋梁建設協会 企画委員会 国際小委員会 井谷 達哉 氏



松井繁之大阪大学名誉教授



講演会の状況

## II. コンクリート研究委員会

### 1. 現場見学会

コンクリート研究委員会では、賛助会員およびコンクリート系講座の学生を対象とした現場見学会を毎年開催しております。本年度は平成25年10月2日に、ダム工学会との共同開催で開催し、86名の参加がありました。

見学場所 : 新川さくら並木橋・豊平峡ダム・定山溪ダム

参加者 : 91名

一般参加者 17名

北海学園大学(3年生) 引率教員含めて 74名



新川さくら並木橋(プレビーム桁製作ヤード)



定山溪ダム 参加者全員の集合写真



定山溪ダム見学状況



豊平峡ダム 参加者全員の集合写真

### 2. 土木の日協賛「パネル展」

北海道土木技術会主催「北の暮らしを支える土木・・・土木の日パネル展 2012」に、他の研究委員会と共同で、平成25年11月18日(月)～11月19日(火)に札幌駅北口コンコース イベント広場においてパネル展示を行いました。



研究委員会紹介パネル

### 3. 講演会

平成25年10月8日にホテル札幌ガーデンパレルに於いて、「コンクリート構造物の新しい補修材料、補修・補強工法」を開催致しました。

基調講演：『コンクリート構造物の「強靱化」』

北海道大学大学院工学研究院 環境フィールド工学部門

環境機能マテリアル工学研究室 教授

杉山 隆文様

個別講演 1 : 『新しい補修材料 補修用ポリマーセメントモルタルとその二次製品を活用した提案』

(株)南組 保守維持事業部次長 南 真樹様

個別講演 2 : 『PCグラウト充てん不足部補修工法 -リパッシブ工法-』

(株)ピーエス三菱技術本部技術部部長 石井 浩司様

個別講演 3 : 『橋脚の新しい耐震補強 -ピア-リフレ工法-』

オリエンタル白石(株)東京支店施工技術部課長 岩澤 啓介様

#### 4. PCセミナーの開催

コンクリート研究委員会では、土木工学系の学生にプレストレストコンクリートへの興味を持って頂くことを狙いとして、PCセミナーを北海道大学他6校で毎年開催しております。

セミナーでは、PC梁模型を用いたプレストレストコンクリートの概要説明、北海道のコンクリート橋の事例紹介、「PC橋の工事記録」についてのビデオ上映、景観を考慮したPC構造物の設計例などのほか、若手技術者から社会人としての体験談を話していただいております。

#### 平成24年度 PCセミナー開催実績

学校(担当教官)	担当者	開催日	出席者数	若手技術者の声
苫小牧高専 廣川一巳准教授	長太(中央C)	6月25日(火)95分	4年生	山岸 央
	高澤(オリエンタル白石)	7月9日(火)95分	40名	(開発工営社)
北海道大学 佐藤靖彦准教授	高澤(オリエンタル白石)	10月30日(水)90分	48名	高澤(オリエンタル白石)
	中田(ドーコン)	1月15日(水)90分		中田(ドーコン)
北海道工業大学 白石教授	永野(日本高压)	12月10日(火)90分	3年生	太田 佳宏
	長太(中央コン)	12月17日(火)85分	10名	(中央C)
室蘭工業大学 菅田紀之准教授	中田(ドーコン)	11月18日(月)	50名	佐々木 徹也
	高木(ピーエス三菱)	190分		(ドーコン)
函館高専 澤村秀治 教授	坂村(構研E)	12月13日(金)	4年生	山本 和敏
	玉置(三井住友)	215分	33名	(構研E)
北海学園大学 高橋義裕 教授	木村(構研E)	12月11日(水)	3年生	濱本 泰弘
	玉置(三井住友)	90分	52名	(三井住友)
北見工業大学 井上真澄准教授	松井(DP)	2月4日(火)	2年生	中村 史彬
	青地(開発工営社)	190分	62名	(ドーピー建設工業)

#### セミナーの内容

PPT	プレストレストコンクリートの概要
	PC技術を用いた構造物
	北海道のコンクリート橋
	景観設計の実例と北海道のコンクリート橋
ビデオ DVD	PC橋の工事記録
	北海道のPC橋
	プレストレストコンクリート(入門編)
	プレストレストコンクリート(橋梁編)
社会人としての体験談話	
教材①: PC梁模型、PC鋼材・定着具	
教材②: 単純PC桁の応力コンター図(PPT)	

### Ⅲ. 舗装研究委員会

平成25年度の舗装研究委員会の活動内容の中から、トピックとしてコンクリート舗装小委員会と講演講習小委員会の活動について紹介させていただきます。

#### 1. コンクリート舗装小委員会

コンクリート舗装小委員会では、年に数回の現場見学会や勉強会を開催しています。今年度の現場見学会は、建設から60年を経過したコンクリート舗装（写真-1）、ダイヤモンドグライディング工法の試験施工（写真-2）、早期交通開放型コンクリート舗装の公開施工（写真-3）の3カ所で現場見学会が開催されました。

##### 1-1. 長期供用後のコンクリート舗装

コンクリート舗装は、長期的な耐久性が期待できる点が長所の一つです。北海道においても、建設から数十年を経たコンクリート舗装がいくつか現存していますが、見学会を実施した箇所は、一般国道5号線の西宮の沢付近にある、上下線の追越し車線のコンクリート舗装です。見学会は、舗装補修に伴う表面のアスファルト舗装部を切削したときに行いました。現在も、既設コンクリート舗装上にオーバーレイが実施され、今後も供用されていくことになります。



写真-1

##### 1-2. ダイヤモンドグライディング工法

コンクリート舗装は、経年的な供用に伴うポリッシング等によって、舗装路面のすべり抵抗値が低下していく場合があります。本工法は、組み合わせたダイヤモンドブレードで路面を数mm切削し、路面のすべり抵抗や平坦性等を回復させる工法です。コンクリート舗装は、構造的な劣化が生じていない場合でも、路面の機能低下が進行してしまう場合があり、本工法の適用性が期待されています。試験施工に関する報告については、第69回（平成26年度）土木学会年次学術講演会で紹介される予定ですので、詳細についてはそちらでご確認ください。



写真-2

##### 1-3. 早期交通開放型コンクリート舗装

早期交通開放型コンクリート舗装（1day pave NETIS:KT-130044-A）は、従来のコンクリート舗装よりも大幅に強度発現期間を短縮できるコンクリート舗装です。特殊なセメントや混和材料等を使用せず、早強ポルトランドセメントと一般的な高性能AE減水剤を用いるため、比較的容易に製造出来ることが特徴です。従来のコンクリート舗装の技術的な課題である養生期間に対応する具体的な工法ですので、今後の適用が期待されます。



写真-3

#### 2. 講演講習小委員会

平成25年度の講演講習小委員会の活動の中から、札幌市が行っている「北3条広場木塊舗装保全工事」における木塊の補修材料・補修工法の検討と現場見学会について紹介します。

## 2-1. 北3条広場木塊舗装保全工事

大正13年(1924年)、北3条線の道庁正門前から駅前通までの117.27mに、札幌で最初の舗装道路である木塊舗装(車道)とアスファルト舗装(歩道)が施工されました。昭和5年(1930年)には、膨れ浮き上がった木塊舗装上にアスファルト舗装によるオーバーレイを施工し、平成元年(1989年)には、大規模な改修工事が行われ、木塊舗装の上にインターロッキング舗装が整備されました。

平成25年度、南側のビルの再開発に併せて、自動車を通行止めとした「北3条広場」の整備にあたり、札幌市は、貴重な文化遺産である木塊舗装の保存のため「北3条広場木塊舗装保全工事」を計画し、舗装研究委員会は、木塊舗装の補修材料や補修工法の検討などについて協力を行いました。

## 2-2. 補修材料・補修工法の検討

### (1) 試験施工の立会(札幌市中央区北3条西4丁目 北3条線)

日時:平成25年5月29日(水) 13:30~17:00

概要:木塊舗装保全工事に先立ち実施された試験施工に、舗装研究委員会から武市委員長以下5名が立会し、木塊の破損状態に応じた補修材料、補修工法の検討と、木塊表面に施工する塗膜系防水材の施工性と効果の確認を行いました。

### (2) 木塊舗装保全工事の視察

日時:平成25年6月25日(火) 13:30~16:30

概要:木塊保全工事の開始にあたり、舗装研究委員会から5名が視察を行い、最初の施工エリアにおいて木塊の状態を確認し、木塊の健全度の判定と補修範囲(撤去範囲)の目安等を現地にて確認しました。



(1) 試験施工の立会

(2) 木塊舗装保全工事の視察

## 2-3. 現場見学会

日時:平成25年7月24日(水) 14:00~16:00

工事名:平成25年度 北3条広場木塊舗装保全工事(札幌市発注)

参加:46名

概要:工事区間を14のエリアに分割し、①舗装版撤去、②木塊健全度調査(打音、触診等)、③排水工(ポーラスコンクリート+導水管)、④腐食木塊補修(6号砕石+CAモルタル)、⑤加熱型アスファルト塗膜防水、⑥細粒度アスコン(保護層:t=40)の順で施工しますが、今回は、④腐食木塊補修のCAモルタルによる木塊補修作業を見学しました。



現場見学会の実施状況

#### IV. トンネル研究委員会

トンネル研究委員会が昨年度主催した、「2014 トンネル技術の特別講演と技術研究発表会」の紹介をいたします。本年は、特別講演1編、一般論文7編の発表（次頁参照）があり、172名の参加がありました。

##### ■特別講演

特別講演は「もしアイドルグループがトンネル掘削ずりの『マネジメント』をしたら:サイト概念モデルによる評価と国内での実施例」と題しまして、オハイオ州立大学 地質科学科（北海道大学 工学研究院 環境循環システム部門）の茨木 希氏に講演をしていただきました。

講演内容は近年、特にトンネル工事で問題となっている“ズリに含まれる自然由来の重金属マネジメント”に関する話題であり、聴講者の興味を引く内容となっていました。また、講演は一般的な講演とは異なり、講演の合間合間に聴講者に対する質問（クイズ形式）を織り交ぜた“全員参加型”の講演だったことから、聴講者は一瞬たりとも気が抜けない講演でした。



茨木 希氏

講演は、はじめに“自然環境は、化学物質にあふれており、土木工事によって自然由来の重金属類化学物質が自然環境に流出している”からはじまり、自然由来の土壤汚染が日常生活へ及ぼす影響、そのための対策として行われている現在のマネジメントには膨大なコストがかかるといった問題提起が成されました。その後、旭川開発建設部が導入している新しいマネジメント（サイト概念モデルによるリスク評価）が紹介されました。講演タイトルとなっているアイドルグループというのは、旭川開発建設部の新しいマネジメントを略した“AK2Bアプローチ”と掛けたものであるとの説明があり、ここで初めて聴講者のみなさんがタイトルの意味を理解されたものと思われま

す。サイト概念モデルによるリスク評価とは、これまで重金属対策として行われてきた遮水工や吸着剤による対策が対策箇所直下で地下水基準値を満足する事を目的としてきたのに対し、用地境界で基準値を満足すれば良いという考えに基づくものであり、地下水中での希釈効果を見込むことで対策コストの縮減が可能になるとのことです。ただし、このマネジメントには良い点だけでなく、悪い点（難しい点）もあり、これを解消するためには解析に用いるパラメーターや解析を行うコンサルタントの技術力が重要であること、より安全な対策とするためには保守的なパラメーターを設定すべきといった提言などが示されました。



会場の様子

##### ■一般論文

一般論文は、ウォータータイトトンネルに関する施工実績報告が2編、施工技術に関する報告（覆工コンクリートの品質向上対策、坑内の粉じん低減工法）が2編、情報化施工に関する事例報告が1編、トンネル維持管理に関する報告が1編のほか、トンネルマネジメントシステム（TMS）分科会から「寒冷地トンネルにおけるリスク環境下のライフサイクルコストについての中間報告」1編の計7編の発表がありました。

<発表題目と講演者>

【特別講演 1題】

「もしアイドルグループがトンネル掘削ずりの『マネジメント』をしたら  
：サイト概念モデルによる評価と国内での実施例」

オハイオ州立大学 地質科学科  
北海道大学 工学研究院 環境循環システム部門 茨木 希

【一般論文 7題】

「過酷な地理的条件下での覆工コンクリートの施工と品質向上対策」

— 北海道横断自動車道 釧路市 小音別トンネル —

北海道開発局 釧路開発建設部 釧路道路事務所 神明義、近藤 優、林 貴博  
株式会社竹中土木 小音別トンネル外一連工事作業所 大藤 茂也、○西村 直人  
株式会社竹中土木 技術・生産本部 市川 晃央  
首都大学東京 西村 和夫

「知床の自然環境を守るウォータータイトトンネル」

— 道道知床公園羅臼線マッカウストーンネル —

北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部 中標津出張所 古田 研太郎  
伊藤組土建株式会社 土木事業本部 土木部 ○小原 康博  
北海道土木設計株式会社 地質防災部 寺田 卓矢  
株式会社エーティック 技術第二部 小原 雄一、成沢 郁夫

「ウォータータイトトンネルにおける止水注水工と掘削工」

— 旭川十勝道路富良野市 北の峰トンネル工事 —

北海道開発局 旭川開発建設部 富良野道路事務所 粕谷 光晴、齋藤 宏樹  
鹿島建設株式会社 北海道支店 成田 望、○横田 泰宏

「幌延深地層研究計画 地下研究施設建設における情報化施工」

日本原子力研究開発機構 幌延深地層研究センター 工藤 元  
日本原子力研究開発機構 幌延深地層研究ユニット 津坂 仁和  
大成・大林・三井住友共同企業体 名合 牧人、○南出 賢司、萩原 健司  
大成・大林・三井住友共同企業体 小川 弘之、森本 勤、矢吹 義生

「発破現場対応「トラベルクリーンカーテン」

(トンネル坑内の粉じん低減工法)の適用」

九州地方整備局 八代河川国道事務所 山下 信一  
株式会社大林組 ○荒川 晃士、小林 誠、中村 亮、宮ノ原 隆一  
株式会社東宏 小林 雅彦

「既設トンネル(在来工法)覆工背面空洞における裏込め注入の施工について」

— 背面排水の閉塞防止について —

北海道開発局 旭川開発建設部 道路整備保全課 小林 暁  
北海道開発局 旭川開発建設部 旭川道路事務所 ○高田 正広  
株式会社橋本川島コーポレーション 土木部 竹田 茂  
株式会社ダイヤコンサルタント 北海道支社 設計部 水島 秀明

「寒冷地トンネルにおけるリスク環境下のライフサイクルコストについて」

— トンネルマネジメントシステム(TMS)分科会中間報告 —

岩田地崎建設株式会社 技術部 ○須藤 敦史  
独立行政法人 土木研究所寒地土木研究所 佐藤 京  
株式会社エーティック 計測部 角谷 俊二  
株式会社構研エンジニアリング 防災施設部 五十嵐 隆浩  
大建産業株式会社 荒井 洋

## V. 道路研究委員会トピックス

平成 25 年度、道路研究委員会では主催、共催、後援と、計 3 回の講演会を開催しました。このうち、第 1 回、第 2 回の概要を紹介します。

### ■ 第 1 回講演会 平成 25 年 6 月 7 日

我が国の社会資本ストックは、高度経済成長期などに集中的に整備され、今後急速に老朽化することが見込まれていることから、真に必要な社会資本整備とのバランスを取りながら、戦略的な維持管理・更新を行うことが課題となっています。一方、道内では、国道 230 号における土砂災害や、暴風雪により死者が出るなどの自然災害が発生しています。

このような背景から、今後の北海道におけるインフラマネジメントを考えることを目的に、道路の維持管理に関する新たな取り組み、道路に対して通行止め等の影響をおよぼす近年の北海道の気象特性についてのトピックを、2 名の講師をお招きし、ご紹介いただきました。

#### 1) 岐阜県の維持管理戦略

岐阜大学工学部社会基盤工学科の教授で、社会資本アセットマネジメント技術研究センター 総合リスクマネジメント技術研究室の室長である倉内文孝様から、維持管理や機能劣化にともなう利用者の所要時間増加などのコストを考慮した維持管理方策や、地震災害を想定した耐震戦略決定に関する研究と、岐阜県が策定した維持管理戦略（メンテナンスプラン）や、人材育成の取り組み「社会基盤メンテナンスエキスパート養成」についても話題提供していただきました。

はじめに、岐阜県内の道路インフラについて、県管理の道路延長が長く、橋梁数は全国 2 位、トンネル延長は全国 1 位という現状をご紹介いただきました。このような背景のもと、老朽化する道路構造物を適切に管理していくために、地域協働型の管理体制の構築を目指すこととし、岐阜大学と岐阜県、県内の建設産業が連携し、「社会基盤メンテナンスエキスパート」の養成に取り組んでいます。

また、従来の「対症的」な手法から、「予防保全的」な手法に移行していく上では、県民との協働による情報収集や効率的な補修などの維持管理が必要となります。そこで、地域住民の社会構造物維持管理への理解と参画を促す「社会基盤メンテナンスサポーター制度」による、道路等の損傷を早期に発見・補修、補修費用低減に向けた取り組みについてご紹介いただきました。

さらに、岐阜県が策定した「社会資本メンテナンスプラン」について紹介していただきました。このプランは、道路損傷が及ぼす社会的影響（リスク）を区間ごとに定量的に評価し、補修必要区間の優先度を決定するものです。

#### 2) 近年の気象特性と道路災害

一般財団法人日本気象協会 北海道支社 防災対策室長である松岡直基様から、近年の気象特性と道路災害と題して、外力としての気象現象は変化しているのか、気候変動の影響はあるのか、予測はどこまで可能なのか、そして、インフラマネジメントにおける気象情報の位置づけ、といった観点でご講演いただきました。近年の気象変動の特徴として、短時間強雨の増加が挙げられ、気象庁では、土壌雨量指数という指標により、土砂災害警戒情報が提供されています。北海道では、融雪を加味した指数を算出することがご提案されました。

一方、冬期については、平成 25 年 3 月 2 日の暴風雪の発生メカニズムを解説していただきました。この暴風雪が発生した日は、オホーツク海側では晴天域から強風域が時速約 30~40km で南下しました。2 日土曜日の午前中は晴天であったため、通常通りの



図 第 1 回講演会の様子

社会活動を行わせ、その後の気象の急変が大規模な災害に結び付いたとのことでした。

今後、道路災害を抑制、防止していく上で、「外力としての気象現象は変化しており、線状降水帯や冬期の爆弾低気圧に対して、新たな視点で対応していくことが必要であること」、「スケール（時間・距離）の大きなものは事前に予測可能であるが、ゲリラ豪雨のような小さなものは苦手であること」といった課題が挙げられました。また、道路災害を引き起こす気象現象は一定精度で予測可能だが、吹雪災害のようにハザード（危険要因）の特定ができていない、ということが課題として挙げられました。今後は、各種気象情報から、道路災害の具体的なハザードを認識する手法の開発が望まれるとともに、予測の不確実性、ハザードの定量化、リスクコミュニケーションなど踏まえ、リスクマネジメントを導入していくことが望まれるとのことご提案を頂きました

## ■ 第2回講演会 平成 25 年 11 月 26 日

本講演会は、一般社団法人交通工学研究会主催の「交通工学研究会 第7回シンポジウム」の後援として開催したものです。本講演会は、現在抱えている道路交通問題を実務上解決する方策として、道路の機能に基づいた階層化と性能照査の意義や、その実現性について改めて考えることを趣旨として開催されました。

基調講演では、北海道大学教授の田村亨様より北海道の道路ネットワークの現状と課題についてご講演いただきました。

また、昨年度より、交通工学研究会の基幹研究として位置づけられた「道路の交通容量とサービスの質に関する研究」の目的と活動を、(株)道路計画の野中康弘様にご紹介いただきました。

引き続き開催されたパネルディスカッションでは、現状の日本の道路の問題点を整理し、今後の望ましい道路交通像を提示するとともに、その実現に向けた実務における現実的な問題解決策について議論されました。パネリストとして、

秋田大学 浜岡秀勝様、国土技術政策総合研究所 高宮進様、土木研究所寒地土木研究所 浅野基樹様、(株)ドーコン 奈良照一様、国際航業(株) 阿部義典様、日本大学 下川澄雄様が登壇しました。

戦後、道路ストックが物理的になく、しかも極めて脆弱な時代においては、道路整備が急務であり、「道路構造令」（および「道路構造令の解説と運用」）により、効率的に一定の品質の道路を整備してきました。現在では、十分ではないものの、道路ストックが一定程度に到達しており、“つくる”時代から“つかう”時代にシフトしています。そのためには、道路の機能に応じて、適切な性能を発揮できる合理的な道路構造や道路ネットワークが不可欠であり、道路の階層化による望ましい道路空間の実現が望まれます。

上記の問題認識のもとで、道路の階層化の必要性についてパネリスト間で議論し、その後、道路の階層化を実現するためのポイントや考え方、道路の階層化を進めていくためにはどのようなことが必要か、といった点についての議論がフロアからの質疑をはさみつつ展開されました。

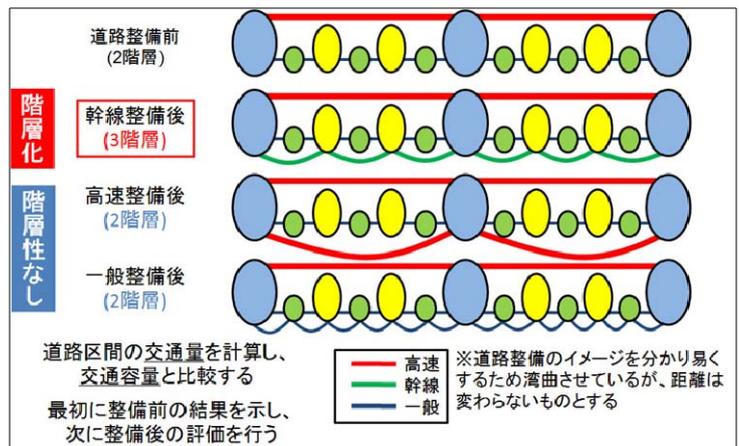


図 道路ネットワークの階層化イメージ



図 第2回講演会の様子

## VI. 土質基礎研究委員会

### ■ 土質基礎に関する「寒冷地特有の問題と対策」技術報告会 ■

北海道のような寒冷地では、凍結融解や凍上、積雪融雪、あるいは寒冷地特有の泥炭性軟弱地盤など多くの問題を抱えています。土質基礎研究委員会では、土質基礎に関する「寒冷地特有の問題と対策」をテーマとして、第12回技術報告会を平成26年2月14日に北大学術交流会館にて開催しました。

本報告会では、北海道工業大学の川端伸一郎先生による基調講演、および各社・各機関における最近の対策施工事例や取組み、研究成果など下記5編の技術報告が行われ、活発な議論がありました。

#### 《プログラム》

##### 基調講演

「凍上対策のためのn年確率凍結指数の決定法とその地域特性」

川端伸一郎（北海道工業大学）

##### 技術報告

「ロードライトを用いた断熱工法による道路の凍上抑制効果について」

黒部和彦、土門謙治（カネカケンテック（株））

「非対称な凍結面による切土小段排水溝に及ぼす影響と対策」

安達隆征、山梨高裕、佐藤厚子（寒地土木研究所）

「寒冷地の高速道路における近年の凍上対策技術の取組み」

山内智（東日本高速道路（株））、笠野亨尚（（株）ネクスコ・エンジニアリング北海道）

「寒冷地における斜面の土の凍上性判定方法に関する考察」

岩倉徹、神原孝義（（株）北海道技術コンサルタント）、小野丘（北海学園大学工学部）

佐藤厚子（寒地土木研究所）、佐々木裕一（北海道三祐（株））、谷藤義弘（東日本高速道路（株））

「冬期における不良土対策の留意点」

佐藤厚子、山梨高裕、山田充（寒地土木研究所）、鈴木輝之（北見工業大学名誉教授）



川端伸一郎先生による基調講演



技術報告会開催状況

## Ⅶ. 建設マネジメント研究委員会

### 道南建設二世会と若手技術者の育成問題を話し合う

北海道土木技術会建設マネジメント研究委員会（高野伸栄委員長）は平成 25 年 12 月 7 日、函館建設業協会で道南建設二世会（伊藤大樹会長）と「地域建設産業活性化事業に関する意見交換会・講演会」を開き、若手技術者の育成問題について意見を交わしました。

同研究委員会は 2010 年度から「地域建設産業活性化」をテーマに、北海道建青会傘下の二世会と意見交換会を継続実施しており、オホーツク二建会、小樽建設協会建世会、釧路建親会、空知経営研究会、宗谷建設青年会に次いで 6 回目となります。

はじめに道南建設二世会の伊藤会長があいさつに立ち「未来に向かって活発に意見を交わし、地域の建設企業がこれから生き残っていくためのヒントを得たい」と述べました。

講演会では、新山惇顧問が年末に決まる北海道開発予算の行方や来年の通常国会で審議される公共工事品確法について解説。高野委員長は、国土交通省が取り組んでいる技能労働者の確保問題などを紹介し「担い手を確保していくためには、建設生産システムそのものを変えていく荒治療が必要かもしれない」と問題提起しました。一方、倉内公嘉幹事長は、国交省の社会保険未加入対策について「猶予期間が長いからといったのんびりしてられない。来年度からチェックが相当厳しくなりそうだ」との見通しを示しました。

道南建設二世会の活動報告は、地元の青年団体と共同で実施した、函館出身のロックバンド「GLE Y」の野外コンサート（7 月 27、28 日）とロシア極東大学の留学生支援事業をそれぞれの担当役員が紹介しました。

「若手技術者の育成」をテーマにした意見交換会では、二世会のメンバーから「地元普通高校の卒業生を採用して、技術者に育てようとしても定着しない」「昔はやる気のある普通作業員が資格を取って、一人前の技術者に育ったが、今はほとんどない」と厳しい発言が相次ぎ、過疎地における若年者確保の難しい現状が浮き彫りになりました。



写真＝道南建設二世会と建マネ幹部ら 23 人が出席した。

## 帯広二建会と若手技術者問題について意見交換を

北海道土木技術会建設マネジメント研究委員会（高野伸栄委員長）は4月12日、日航ノースランド帯広で帯広二建会（斉藤和之代表幹事）と「地域建設産業活性化等に関する意見交換会・講演会」を開き、建設業界の将来ビジョンや若手技術者の確保・育成問題について活発な意見を交わしました。

同研究委員会は2010年度から「地域建設産業活性化」をテーマに、北海道建青会傘下の二世会と意見交換会を実施しており、オホーツク二建会、小樽建設協会建世会、釧路建親会、空知経営研究会、宗谷建設青年会、道南建設二世会に次いで7回目となります。

会議の冒頭、1月に代表幹事に就いた斉藤氏が「建設業を取り巻く環境は大きく変化しているが、これからの建設業界がどうなっていくのかという将来ビジョンをしっかりと勉強していきたい」とあいさつしました。

講演会では、新山惇顧問が建設専門紙や一般紙のスクラップ資料を示し、建設業を巡る最近の話題を提示。高野委員長は、土木学会建設マネジメント委員会将来ビジョン特別小委員会がまとめた「将来ビジョン22」を説明し「ビジョンをつくる過程が大切であり、そこにどんな思いを込めたかが重要」と強調。倉内公嘉幹事長は、帯広開建一般土木の落札率や社会保険加入率などの特徴を示した。

帯広二建会の事例紹介では遊佐俊治幹事が「愛の国さくらまつり」、山内正裕幹事が「ジュニア現地学習会」をそれぞれ説明。意見交換会では若手技術者の確保・育成問題を議論したが、帯広二建会の複数のメンバーから「せっかく育てた若手技術者が市役所や町役場へ転出してしまった」との発言が出ました。



写真＝建マネ幹部と帯広二建会が若年者の人材確保について意見交換した。

北海道土木技術会 歴代会長・副会長・幹事長名簿

年 度	会 長	副 会 長		幹 事 長
昭和 29～32 年度	齋藤 静脩			
昭和 33～38 年度	真井 耕象	小崎 弘郎		古谷 浩三
昭和 39～48 年度	高橋敏五郎	伊福部宗夫	古谷 浩三	河野 文弘
昭和 49～52 年度	横道 英雄	古谷 浩三	林 正道	河野 文弘
昭和 53～59 年度	町田 利武	尾崎 晃	長縄 高雄	高橋 毅
昭和 60～61 年度	尾崎 晃	長縄 高雄	渡辺 健	久保 宏
昭和 62～63 年度	尾崎 晃	長縄 高雄	渡辺 健	太田 利隆
平成 元 年度	長縄 高雄	菅原 照雄	久保 宏	森 康夫
平成 2 年度	長縄 高雄	菅原 照雄	高橋 陽一	森 康夫
平成 3 年度	菅原 照雄	渡辺 健	西本 藤彦	森 康夫
平成 4 年度	菅原 照雄	渡辺 健	太田 利隆	森 康夫
平成 5 年度	渡辺 健	渡辺 昇	清崎 晶雄	能登 繁幸
平成 6 年度	渡辺 健	渡辺 昇	小山田欣裕	能登 繁幸
平成 7 年度	渡辺 昇	松尾 徹郎	橋本 識秀	能登 繁幸
平成 8 年度	渡辺 昇	松尾 徹郎	青木 正夫	能登 繁幸
平成 9 年度	松尾 徹郎	星 清	藤田 嘉夫	堺 孝司
平成 10 年度	松尾 徹郎	斉藤 智徳	藤田 嘉夫	石本 敬志
平成 11 年度	加来 照俊	高橋 陽一	能登 繁幸	高木 秀貴
平成 12 年度	加来 照俊	高橋 陽一	阿部 芳昭	高木 秀貴
平成 13 年度	高橋 陽一	土岐 祥介	斉藤 智徳	鈴木 哲也
平成 14 年度	高橋 陽一	土岐 祥介	斉藤 智徳	鈴木 哲也
平成 15 年度	土岐 祥介	西本 藤彦	斉藤 智徳	西川 純一
平成 16 年度	土岐 祥介	西本 藤彦	斉藤 智徳	西川 純一
平成 17 年度	西本 藤彦	角田與史雄	斉藤 智徳	西川 純一
平成 18 年度	西本 藤彦	角田與史雄	高木 秀貴	西川 純一
平成 19 年度	角田與史雄	能登 繁幸	高木 秀貴	熊谷 守晃
平成 20 年度	角田與史雄	能登 繁幸	恒松 浩	高橋 守人
平成 21 年度	能登 繁幸	佐藤 馨一	恒松 浩	高橋 守人
平成 22 年度	能登 繁幸	佐藤 馨一	川村 和幸	高橋 守人
平成 23 年度	佐藤 馨一	阿部 芳昭	川村 和幸	高橋 守人
平成 24 年度	佐藤 馨一	阿部 芳昭	柳屋 圭吾	西本 聡
平成 25 年度	阿部 芳昭	三浦 清一	柳屋 圭吾	西本 聡
平成 26 年度	阿部 芳昭	三浦 清一	池田 憲二	西本 聡

# 北海道土木技術会規約

昭和33年 9月17日 施行  
昭和40年 3月 1日 一部改正  
昭和61年10月27日 改正  
平成 7年 7月 5日 一部改正  
平成20年 8月26日 一部改正

## 第 1 章 総 則

- 第1条 本会は北海道土木技術会と称し札幌市に事務局をおく。
- 第2条 本会は北海道における土木事業ならびに土木技術の進展を図ることを目的とし、次の事業を行う。
- 1 重要な問題についての共同調査、研究、審議
  - 2 講演会等の開催による技術の向上および普及
  - 3 その他本会の目的を達成するために必要なこと
- 第3条 本会の会員は原則として、北海道在住で本会の趣旨に賛同した者とする。

## 第 2 章 役員および会議

- 第4条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長 1名 副会長 2名 幹事長 1名 幹事 若干名 会計監査 2名  
研究委員会の委員長
  - 2 役員の任期は、1年とし再任は妨げない。
- 第5条 会長は本会を代表し会務を総括する。副会長は会長を補佐しその任務を代行する。幹事長および幹事は会長の指示を受けて会務を処理する。
- 第6条 幹事長、幹事、会計監査および事務局主事は会長が委嘱する。
- 第7条 本会の運営に関し、助言を求めるため会長の委嘱により顧問をおくことができる。
- 第8条 役員会は年1回以上開き会長が招集する。
- 第9条 役員会は次の事項を議決する。
- 1 事業および決算
  - 2 会長、副会長の選出
  - 3 規約の変更
  - 4 研究委員会の設置または廃止
  - 5 その他本会に関する重要な事項
- 第10条 幹事会は幹事長および幹事によって構成し、幹事長が必要と認めたとき随時これを開く。

## 第 3 章 研 究 委 員 会

- 第11条 本会には第2条の目的を達成するため研究委員会をおく。
- 第12条 研究委員会は、3名以上の会員の要請があるとき役員会の審議を経て設ける。
- 第13条 研究委員会の委員長は、会長が委嘱するものとし、その運営は別に定めるところによる。
- 第14条 会員は、研究委員長の委嘱を受けて委員会活動に参加することができる。

## 第 4 章 会 則 お よ び 付 則

- 第15条 本会の事業年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。
- 第16条 本会の運営に要する経費は、賛助金、その他をもってあてる。
- 第17条 この規約は平成20年8月26日から実施する。

## 巻末資料 各研究委員会の活動記録

北海道土木技術会は、1954年（昭和29年）6月19日に設立されましたので、本年2014年をもって60周年の節目を迎えました。そこで、巻末には資料として、各研究委員会の活動年表を示します。

### 鋼道路橋研究委員会

- 昭和39年4月 第1回設立準備委員会開催
- 昭和40年2月 鋼道路橋研究委員会設立(2月25日)
- 昭和40年10月 第1回総会開催(文献・鋼橋写真集編纂・設計仕様の小委員会と事務局)
- 昭和42年9月 「切断式合成桁」の講演会開催
- 昭和43年7月 鋼道路橋研究委員会規約の制定
- 昭和44年3月 「北海道における鋼道路橋の設計及び施工指針」発行
- 昭和45年6月 北海道鋼道路橋写真集(昭和3年～昭和41年)を発行
- 昭和46年1月 「新石狩大橋」、「定山溪国道」の映画会開催
- 昭和47年12月 「石狩河口橋の計画」の講演会開催
- 昭和48年2月 「厚岸大橋の計画」の講演会開催
- 昭和52年10月 耐候性鋼材使用橋梁の見学会開催
- 昭和53年2月 幣舞橋の計画・設計・施工に関する講演会開催
- 昭和55年3月 日本支承協会の協力による支承に関する講演会開催
- 昭和56年7月 「北海道における耐候性鋼材裸使用の道路橋の設計及び施工指針」の発行
- 昭和60年9月 設立20周年記念祝賀会開催
- 昭和62年7月 札幌大橋架設現場見学会開催(参加者362名)
- 平成元年11月 土木の日写真パネル展開催(北海道の名橋物語パネル展)
- 平成2年11月 道内の橋梁を対象とした橋梁景観賞を選考
- 平成4年4月 札幌市建設局の協力のもと「さっぽろの橋41選-'92」を編集
- 平成4年9月 白鳥大橋現場見学会開催
- 平成5年 「橋の耐風設計に関する文献集」を編纂
- 平成6年2月 北海道南西沖地震に関する報告会開催
- 平成6年12月 設立30周年記念事業 欧州橋梁技術調査団派遣(22名)
- 平成7年1月 兵庫県南部地震の現地調査団派遣(3名)および報告会開催(募金活動を行い日本赤十字社に約10万円寄付)
- 平成7年5月 設立30周年記念講演会開催
- 平成7年11月 九州へ橋梁景観視察団派遣(9名)
- 平成8年2月 明石海峡大橋の建設に関する講演会を開催
- 平成9年 鋼道路橋研究委員会ホームページを開設・公開
- 平成10年10月 北米BMSの現状調査団派遣(25名)
- 平成11年10月 海峡横断橋技術に関する講演会を開催
- 平成12年3月 「これからの橋梁維持管理と北米維持管理の調査報告」の講演会開催

平成 13 年 2 月 橋梁維持管理北海道シンポジウム 2001 を開催  
 平成 13 年 10 月 橋梁維持管理・保全フェアを開催  
 平成 14 年 1 月 2002PIARC 第 11 回国際冬期道路会議札幌大会に参加出展  
 平成 14 年 6 月 「耐震設計の現状と課題」の講演会開催  
 平成 15 年 2 月 「橋梁の設計・維持管理」の講演会開催  
 平成 15 年 3 月 「鋼橋の維持管理段階における景観設計」を取りまとめ会員に配布  
 平成 15 年 11 月 「合理化橋梁と合成床版」の講演会開催  
 平成 16 年 8 月 維持管理に関する講演会を開催（202 名）  
 平成 16 年 10 月 設立 40 周年記念橋梁見学旅行開催  
 平成 16 年 11 月 設立 40 周年記念講演会開催  
 平成 16 年 写真集第 10 集（平成 12 年度から 15 年度竣工）の発刊  
 平成 17 年 9 月 振動小委員会主催の講演会（72 名）「地震と地下構造物」講演とパネルディスカッション  
 平成 18 年 2 月 技術講演会の開催（170 名）  
 平成 18 年 8 月 技術講演会の開催（180 名）  
 平成 18 年 11 月 技術講演会の開催（100 名）  
 平成 19 年 8 月 性能設計小委員会主催の講演会（85 名）  
 平成 19 年 10 月 技術講演会の開催（160 名）  
 平成 19 年 10 月 技術講演会の開催（105 名）  
 平成 19 年 12 月 技術講演会の開催（124 名）  
 平成 20 年 歴史資料編（その 4）（平成 8 年度から 17 年度竣工）の発刊  
 平成 20 年 12 月 技術講演会の開催（105 名）  
 平成 21 年 写真集第 11 集（平成 16 年度から 19 年度竣工）の発刊  
 平成 21 年 12 月 技術講演会の開催（120 名）  
 平成 21 年 12 月 技術講演会の開催（90 名）  
 平成 23 年 2 月 技術講演会の開催（90 名）  
 平成 23 年 12 月 技術講演会の開催（121 名）  
 平成 24 年 1 月 「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針」発行  
 平成 24 年 1 月 指針改定に対する講習会開催（202 名）  
 平成 24 年 10 月 事務局主催の講演会（74 名）  
 平成 24 年 12 月 技術講演会を開催（127 名）  
 平成 25 年 9 月 EASEC-13（第 13 回構造工学および建設に関する国際会議）への助成  
 平成 25 年 11 月 技術講演会を開催（177 名）  
 平成 26 年 6 月 講演会「道路の長期保全及び更新について」を NPO 法人 道路の安全性向上協議会  
 と共催で開催（210 名）  
 設立 50 周年記念事業（実施中）

## コンクリート研究委員会

年	委員長	副委員長	事務局長	委員会活動、出版物等
平成 17 年	大沼 博志	川崎 博巳 紺野 寛	山口 光男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：徳富ダム、旭川鉄道高架化事業</li> <li>・「橋梁マネジメントセミナー」へ講師派遣</li> <li>・「北海道におけるコンクリート構造物維持管理の手引(案)」出版</li> </ul>
平成 18 年	大沼 博志	桜田 昌之 下出 育生	山口 光男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：魚谷大橋、祈石大橋、弁財瀧大橋</li> <li>・講演会：「PRC 構造の基本と応用」、「コンクリートに用いる連続繊維補強材」</li> <li>・「橋梁マネジメントセミナー」へ講師派遣</li> <li>・「豊かな沿岸を造る生態系コンクリート」シンポジウム開催</li> </ul>
平成 19 年	大沼 博志	桜田 昌之 下出 育生 花田 眞吉	山口 光男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：豊平峡ダム橋梁、錦冬橋、シューパロ湖 3 弦橋</li> <li>・講演会：「IABSE シンポジウムと欧州の構造物調査団報告」「外ケーブル方式による補強マニュアル(案)の改定について」</li> <li>・「橋梁マネジメントセミナー」へ講師派遣</li> <li>・「沿岸の環境保全コンクリート」研究発表会開催</li> <li>・「北海道におけるコンクリートダムの歴史」出版および研究発表会開催</li> <li>・「北海道のコンクリート橋写真集第五集」出版</li> </ul>
平成 20 年	鮎田 耕一	池田 憲二 下出 育生 花田 眞吉	工藤 浩史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：新桂沢ダム、桂沢ダム、夕張シューパロダム</li> <li>・「橋梁マネジメントセミナー」へ講師派遣</li> </ul>
平成 21 年	鮎田 耕一	池田 憲二 角鹿 正美 花田 眞吉	工藤 浩史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：当別ダム、望郷橋</li> <li>・講演会：「PC 橋の急速施工について」「将来のメンテナンス市場に対応する保全マネジメント」</li> <li>・「橋梁マネジメントセミナー」へ講師派遣</li> </ul>
平成 22 年	鮎田 耕一	池田 憲二 菊池 隆 花田 眞吉	工藤 浩史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：当別ダム、江竜橋</li> <li>・「橋梁マネジメントセミナー」へ講師派遣</li> </ul>
平成 23 年	鮎田 耕一	柳屋 勝彦 佐野 修 花田 眞吉	工藤 浩史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：夕張シューパロダム、道東自動車道</li> <li>・第 20 回プレストレストコンクリートの発展に関するセミナーに技術展示</li> <li>・講演会：「北海道における凍害と塩害の複合劣化について」、「コンクリート構造物の長寿命化を目指した取り組み」</li> <li>・都市型廃棄物利用 CLSM 小委員会報告書出版</li> <li>・漁港における環境保全コンクリート研究小委員会報告書出版および報告会開催</li> </ul>
平成 24 年	上田 多門	柳屋 勝彦 平野陽彦 花田 眞吉	工藤 浩史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：京極水力発電所</li> <li>・講演会：「セメント系補修・補強材料に関する技術講習会」</li> </ul>

平成 25 年	上田 多門	廣川 誠一 平野 陽彦 花田 眞吉	工藤 浩史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学会：新川さくら並木橋、豊平峡ダム、定山溪ダム</li> <li>・講演会：「コンクリート構造物の新しい補修材料、補修・補強工法」</li> <li>・「北海道におけるコンクリート構造物の性能保全技術指針」出版および講習会開催</li> </ul>
平成 26 年	上田 多門	廣川 誠一 岸 純太郎 花田 眞吉	工藤 浩史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・60周年記念現場見学会</li> <li>・60周年記念講演会</li> <li>・劣化したコンクリート構造物の構造性能評価研究委員会中間報告書作成および講習会開催</li> <li>・超高強度繊維補強コンクリートに関する小委員会活動報告書出版および報告会開催</li> </ul>

## 舗装研究委員会

- 昭和 55 年(1980) 6 月 舗装研究委員会発足  
菅原照雄 北海道大学土木工学科教授 委員長に就任(～63 年)
- 昭和 56 年(1981) 12 月 講演会 カナダにおける道路事情 (北海道自治会館)
- 昭和 57 年(1982) 12 月 講演会 カナダにおける舗装道路の管理システム (北海道自治会館)
- 昭和 60 年(1985) 7 月 講演会 世界の道路事情 (北海道自治会館)  
北海道舗装史(上) 発刊
- 昭和 61 年(1986) 5 月 軽交通舗装設計要領(案) 昭和 61 年版 発刊  
10 月 講演会 路面氷結遅延舗装材について (北方圏センター)  
12 月 北海道舗装史(下) 発刊
- 平成 元年(1989) 4 月 久保 宏 北海学園大学工学部土木工学科教授 委員長に就任(～平成 8 年)  
北海道におけるアスファルト舗装路面損傷 -写真集- 発刊  
国際講演会の開催 (北海道大学学術交流会館)
- 平成 2 年(1990) 3 月 アスファルト舗装要綱に関する質疑応答集 (北海道版) 発刊  
4 月 軽交通舗装の施工と補修指針 (平成 2 年版) 発刊  
道路技術国際講演会の開催 (KKR 札幌)  
9 月 講演会 日加寒冷地舗装会議 (P I C A IV) 特別セミナー  
(北海道大学学術交流会館)
- 平成 4 年(1992) 5 月 舗装マネジメントシステム (PMS) 入門 発刊
- 平成 5 年(1993) 1 月 北海道におけるブロック舗装設計施工要領(案) 発刊  
10 月 講演会 中国の道路事情について (舗装事業協会 会議室)
- 平成 6 年(1994) 1 月 講演会 欧米の冬期道路管理事情 (ポールスター札幌)  
11 月 冬期路面管理講習会の開催 (北海道大学学術交流会館)
- 平成 7 年(1995) 3 月 軽交通舗装設計要領要 (平成 7 年度北海道版) 発刊
- 平成 8 年(1996) 3 月 講演会 中国における舗装マネジメントシステムの開発  
(北海道大学学術交流会館)  
4 月 舗装路面の特性に関するセミナーの開催 (北海道大学学術交流会館)
- 平成 9 年(1997) 4 月 笠原 篤 北海道工業大学社会基盤工学科教授 委員長に就任(～平成 23 年)
- 平成 10 年(1998) 8 月 冬期路面管理資料 (路面对策WG) 発刊
- 平成 12 年(2000) 6 月 最新舗装マネジメント 発刊  
9 月 舗装研究委員会設立 20 周年記念事業 ブダペスト国際会議・東欧道路視察実施
- 平成 13 年(2001) 3 月 舗装研究委員会設立 20 周年記念講演会・祝賀会実施(北海道大学学術交流会館)
- 平成 14 年(2002) 9 月 木塊舗装道の発掘調査 (札幌市北 3 条西 4 丁目道庁正門前通で実施)
- 平成 15 年(2003) 10 月 弾丸道路開通 50 周年舗装開削調査現地見学会 (島松地区旧国道 36 号で実施)  
弾丸道路開通 50 周年記念 小学年低学年用 広報小冊子「みち」発刊
- 平成 16 年(2004) 7 月 講演会 舗装マネジメントシステムについて (旧開発土木研究所)
- 平成 18 年(2006) 2 月 舗装研究委員会設立 25 周年記念講演会(北海道大学学術交流会館)  
3 月 道路技術講演会の開催 (旧開発土木研究所との共催)

- 9月 現場見学会  
 (小樽開発建設部双葉ダム修繕工事現場、北海道電力京極水力発電ダム建設現場)
- 平成 19 年(2007) 8月 カラー骨材舗装小委員会 発足
- 平成 20 年(2008) 4月 講演会 SMA (Stone Mastic Asphalt) について  
 ((社)北海道開発技術センター)  
 電子資料管理プログラム「SIRYO2008」完成
- 平成 21 年(2009) 8月 「砕石マシックアスファルト(SMA)」及び「長寿命アスファルト舗装：  
 技術版」翻訳出版  
 電子資料管理プログラム「SIRYO2010」完成(SIRYO2008 の更新)
- 平成 23 年(2011) 4月 軽交通舗装設計要領要(平成 23 年度北海道版) 発刊  
 7月 現場見学会 (IH舗装撤去工法：追直漁港人工島連絡橋)  
 8月 現場見学会 (北海道電力京極水力発電ダム建設現場)
- 平成 24 年(2012) 3月 カラー骨材舗装小委員会 閉会  
 4月 武市 靖 北海道学園大学工学部社会環境工学科教授 委員長に就任  
 6月 コンクリート舗装小委員会 発足
- 平成 25 年(2013) 3月 北海道舗装史(上・下巻)を電子書籍化  
 7月 現場見学会(木塊舗装保全工事：札幌市北 3 条広場)  
 8月 現場見学会(施工後 60 年経過のコンクリート舗装の調査状況：国道 5 号札幌市内)  
 10月 現場見学会(早期交通解放コンクリート舗装の施工：小樽市内の工場構内)  
 11月 現場見学会(DG 工法による既設コンクリート舗装の粗面化施工：国道 231 号のトンネル)

トンネル研究委員会

年度		技術研究発表会特別講演		重要行事・事象
S 60	1985	小渡敏彦 (北海道開発局)	『道路トンネルの現状と計画』	「北海道土木技術会道路トンネル研究委員会」の発足(1985. 11)
		太田正和 大沼憲昭 (日本道路公団)	『道央自動車道美唄トンネル工事施工概要』	
S 61	1986	山本 稔 (東京都立大学)	『トンネル技術の現状と展望』	・「北海道の道路トンネル第1集」の発刊(1987. 3) ・「変状トンネル全道マップ」の作成
S 62	1987	櫻井春輔 (神戸大学)	『トンネルにおける現場計測の現状と展望』	—
S 63	1988	足立紀尚 (京都大学)	『NATMにおける計測』	「トンネル温度計測施工マニュアル」の作成
H元	1989	今田 徹 (東京都立大学)	『トンネルの内空変位とその対応策』	—
H 2	1990	水谷敏則 (建設省土木研究所)	『トンネルの計測管理』	・5周年記念事業：特別講演(1991. 2) ・「トンネルデータベース (ACOS)」の作成
H 3	1991	西松裕一 (東京大学)	『岩盤の時間依存性挙動とトンネル支保の設計・施工』	—
H 4	1992	猪熊 明 (建設省土木研究所)	『道路トンネル技術の最近の動向』	—
H 5	1993	山本 稔 (東京都立大学)	『トンネル技術の現状と将来』	「北海道の道路トンネル第2集」の発刊(1993. 6)
H 6	1994	定塚正行 ((財)高速技術センター)	『トンネルの機械化施工の将来展望』	「地方支部連絡会」の発足(1994. 6)
H 7	1995		中止	・地方支部連絡会の名称変更：「地方支部小委員会」(1995. 6) ・「変状トンネルの調査・対策指針(案)」の意見照会
H 8	1996	櫻井春輔 (神戸大学)	『地震とトンネル』	10周年記念事業 ①会報の記念号発行(1996. 9) ②特別講演(1997. 3. 10)：豊浜トンネル崩落事故により、1年延期して実施
		田村喜子 (作家)	『トンネルと私』	
H 9	1997	三浦 克 (日本道路公団)	『トンネル建設とコスト縮減』	・「北海道土木技術会トンネル研究委員会」に名称変更(1997. 6) ・「断熱材の設計・施工指針(案)」の検討
H10	1998	朝倉俊弘 ((財)鉄道総合技術研究所)	『山岳トンネルの変状と対策』	—
		三浦基弘 (東京都立田無工業高等学校)	『東京の地下探検旅行』	
H11	1999	小野紘一 (京都大学)	『アジアにおける天然ガスパイプラインの建設』	—
		佐藤 久 ((社)日本トンネル技術協会)	『トンネル施工法の変遷と特有災害の教訓』	

年度		技術研究発表会特別講演		重要行事・事象
H12	2000	今田 徹 (東京都立大学)	『トンネルの耐久性について』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15周年記念事業：トンネル技術調査団派遣 (2000.11.6～2000.11.15 オーストリア、ドイツ、スイス)</li> <li>・「技術調査団報告書」の作成</li> </ul>
		高崎英邦 (日本大学)	『プロジェクトマネジメントとトンネル』	
H13	2001	大西有三 (京都大学)	『不連続性岩盤解析手法のトンネルへの適用』	—
		佐藤 久 ((社)日本トンネル技術協会)	『トンネル工事における粉じん対策について』	
H14	2002	城間博通 (日本道路公団試験研究所)	『JHにおけるトンネル技術と課題』	地方支部小委員会の名称変更：「地方小委員会」(2002.6)
H15	2003	森 訓保 (北見工業大学)	『トンネル雑感』	—
H16	2004	清水則一 (山口大学)	『GPSによる世界最高精度三次元変位連続計測システムの開発と実用化』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネル技術調査団派遣 (2004.6.25～2004.7.3 ノルウェー)</li> <li>・「ホームページ」の開設</li> <li>・「技術調査団報告書」の作成</li> </ul>
H17	2005	西村和夫 (首都大学東京)	『トンネル技術の現状と課題』	「北海道の道路トンネル第3集」の発刊(2005.12)
H18	2006	Jianxun Chen (長安大学公路学院)	『中国における道路トンネルについて』	—
H19	2007	真下英人 ((独)土木研究所)	『トンネルの維持管理とリニューアル技術の現状と課題』	—
H20	2008	嘉門雅史 (京都大学)	『建設リサイクルと地盤汚染』	—
H21	2009	芥川真一 (神戸大学)	『「応力を計る」技術と「変位を現場で可視化する」技術の開発』	—
H22	2010	亀岡美友 ((社)日本建設機械化協会 施工技術総合研究所)	『山岳トンネルの調査、設計、施工と施工結果』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・25周年記念事業：トンネル技術調査団派遣 (2010.11.12～2010.11.16 韓国)</li> <li>・「技術調査団報告書」の作成</li> </ul>
H23	2011	大西有三 (京都大学)	『「走行型計測技術による健全性評価の実用化」および「簡易型地下水制御解析法の適用性」について』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道の道路トンネル第4集」の発刊(2011.3)</li> <li>・「北海道のトンネル建設技術の変遷～維持管理の時代を迎えて」の発刊(2011.6)</li> </ul>
H24	2012	進士正人 (山口大学)	『デジタルカメラによる粉塵濃度簡易測定とトンネル軸方向変位計測による地山予測法の提案』	—
H25	2013	蔣 宇静 (長崎大学)	『都市部山岳トンネル施工における地表面沈下の予測評価と対策工の選定』	—
H26	2014	茨木 希 (オハイオ州立大学 北海道大学)	『もしアイドルグループがトンネル掘削ずりの「マネジメント」をしたら：サイト概念モデルによる評価と国内での実施例』	—

## 道路研究委員会

年度	技術小委員会 ワーキング	講演会	土木 の日	重要事象
昭和29年		①道路凍上防止対策研究委員会（委員長：真井 耕象 幹事：伊福部 宗夫 委員：板倉忠三、久世 秀明 外11名） ②寒地瀝青合材の配分に関する研究委員会（委員長：高橋 敏五郎 副委員長：板倉忠三 幹事：菅原照雄 委員：入江 但 外13名）		・道路研究委員会の前身委員会6月発足
昭和30年	同上			
昭和31年	同上			
昭和32年	不明			
昭和33年	不明			
昭和34年	不明			
昭和35年	不明			
昭和36年	不明			
昭和37年	不明			
昭和38年	不明			
昭和39年				・新たな小委員会の発足
昭和39年	①表層に関する小委員会（委員長：板倉 忠三） ②路盤に関する小委員会（委員長：板倉 忠三）			
昭和40年	同上	①土木用エポキシ樹脂に関する講演会		
昭和41年	不明	不明		
昭和42年	不明	①土木用エポキシ樹脂に関する講演会 ②アスファルト用ゴムラテックスに関する講演会		・道路研究委員会として正式発足 ・板倉忠三氏委員長就任
昭和43年	不明	不明		
昭和44年	不明	不明		
昭和45年	不明	不明		
昭和46年	不明	不明		
昭和47年				
昭和48年				
昭和49年				
昭和50年				
昭和51年				
昭和52年				
昭和53年				
昭和54年				
昭和55年		（舗装研究委員会創立）⇒舗装に関する研究が道路研究委員会から分離		・委員会の分離
昭和56年				
昭和57年				
昭和58年				
昭和59年				
昭和60年				
昭和61年				
昭和62年	①冬期道路標識WG ②冬期路面表示WG	雪上のマーキング設置効果の研究（R233美馬牛峠 R39石北峠）		・加来照俊氏委員長就任 ・小委員会からワーキング制へ移行
昭和63年	同上	①標識の視認性と運転者挙動（R40サラキトマナイ） ②埋設式道路鋸・埋込式自発光路面表示機器の有効		
平成元年	同上	①スポット式視線誘導灯の調査 ②砕石チップを混入した路面マーキングの効果		
平成2年	①路面表示 ②道路標識 ③道路情報システム ④路面管理 ⑤交通マネジメント	①道路技術国際講演会 ②研究委員会 2回開催		

年度	技術小委員会 ワーキング	講演会	土木 の日	重要事象
平成3年	同上	①道路と自動車運転行動の人間工学 ②路車間通信システムの現状について ③冬期路面管理と気象情報システムについて		
平成4年	同上	①冬期道路の路面管理についての研修会 ②冬期路面管理に関する講演会 ③ミネソタ州における冬期道路管理の将来の方向		
平成5年	同上	①道路のデザインについて ②欧米の冬期道路管理事情 ③道路標識表示の動向	13社	・土木の日パネル展への参賀開始
平成6年	同上	①交通シミュレーション講習会 ②冬期路面管理に関する講演会 ③交通政策に関する講演会	9社	
平成7年	同上	①冬期路面管理と交通事故に関する講演会 ②スパイク・スタッドレスタイヤの問題・導入に関する講演会 ③舗装路面のテクスチャーとすべり抵抗測定比較について	7社	・組織改変（個人会員、賛助会員の設定）
平成8年	同上	①ITSの最近の動向に関する講演会 ②交通シミュレーションプログラムに関する講演会 ③米国のITSと冬期道路管理に関する講演会	8社	
平成9年	①標識標示 ②交通事故分析 ③ITS	①石狩湾周辺の降雪と冷気流 ②インターネットを活用した道路情報提供に関する講演会 ③冬期道路管理と道路整備のあり方に関する講演会 ④最近の交通事故分析技術に関する講演会	8社	・佐藤馨一氏委員長就任
平成10年	同上	①ベトナムの乗り物と交通網について ②ITSの現状と今後に関する講演会 ③ノーマライゼーション社会と交通に関する講演会 ④ITSの取り組みに関する講演会・パネルディスカッション	7社	
平成11年	①標識標示 ②交通事故分析 ③次世代寒地道路	①ITSの現状と今後の展望に関する講演会 ②田園型交通事故の実態と対策に関する講演会 ③北欧の冬期路面管理に関する講演会	12社	
平成12年	同上	①「苫小牧寒地試験道路」「建設行政を取り巻く最近の話題」紹介 ②「IT革命がもたらす地域構造変革」講演会・パネルディスカッション ③公共交通の支援による都市環境向上に関する講演会 ④寒地道路技術に関する国際会議報告会	6社 3団体	
平成13年	同上	①2002年PIARC国際冬季道路会議札幌大会に向けて ②交通事故分析に関する講演会	7社 1団体	
平成14年	①道路管理技術 ②交通事故分析	①シーニックバイウェイプログラムの北海道への導入に関する講演会 ②交通安全・ITS世界会議参加報告 ③スパイクタイヤ規制後の課題と対策に関する討論会 ④ITS次世代寒地道路に関する講演会	4社 1団体	・PIARC国際冬季道路会議札幌大会の展示参画
平成15年	同上	①霧発生時における交通付属施設の視認性について ②自転車と道づくり・まちづくりに関する講演会 ③ふゆのくらしとITSに関する講演会・パネルディスカッション	4社 1団体	

年度	技術小委員会 ワーキング	講演会	土木 の日	重要事象
平成16年	同上	①交通安全に関するパネルディスカッション ②欧米の冬期道路管理に関する講演会 ③交通シミュレーションに関する講演会 ④寒地道路技術における国際会議報告 ⑤ITSに関する講演会	4社	・50周年記念行事として交通安全に関する講演会、パネルディスカッションの開催
平成17年	①道路管理技術 ②冬期路面管理技術 ③次世代寒地道路	①シームレスな交通環境に関する講演会 ②北海道の交通事故の現状に関する講演会 ③冬期道路施策・プロジェクトに関する講演会 ④エコロジカルフットプリント（地球の環境容量指標）について ⑤広島都市圏のみちづくりとまちづくりについて	4社	
平成18年	①交通事故分析 ②冬期路面管理技術	①道路交通パフォーマンス向上に向けた性能照査型道路設計 ②北海道の道路構造と交通運用に関する講演会 ③ITSの最近の動向に関する講演会	3社	
平成19年	①交通事故分析 ②道路管理	①「防災と危機管理」「入札・契約の最近の動向」に関する講演会 ②道路維持管理における技術伝承手法に関する講演会 ③冬期道路分野における最近の国際的な研究動向に関する講演会 ④地方都市における持続可能な都市交通政策に関する講演会 ⑤冬期道路交通に関する講演会	2社	・中辻 隆氏委員長 就任
平成20年	同上	①「環境に優しい交通環境～自転車交通の取り組み」に関する講演会 ②冬期道路の安全性・効率性向上における国際動向に関する講演会 ③北海道の交差点構造に関する講演会 ④北海道における高齢ドライバーの交通事故に関する講演会	2社	
平成21年	①交通安全 ②道路管理	①北海道における交通運用と道路構造に関する講演会 ②「ラウンドアバウト～ドイツの経験」に関する講演会 ③認知症高齢者の外出と交通事故に関する講演会	2社	
平成22年	同上	①モビリティマネジメントの展開可能性に関する講演会 ②冬期道路分野における国際的な研究動向に関する講演会 ③地域医療と道路ネットワークに関する講演会 ④商用車プローブ情報活用に関する講演会	3社	
平成23年	同上	①ITS・プローブ情報活用に関する講演会 ②ITSのシステム開発動向に関する講演会 ③ITS研究のマネジメントに関する講演会	4社	
平成24年	同上	①北海道における冬期道路の維持管理に関する講演会 ②「避難と交通」に関するワークショップ ③新東名とITSに関する講演会 ④「防災と交通」に関するセミナー（日タイ学生セミナー） ⑤海外における冬期道路研究に関するセミナー	2社	
平成25年	同上	①北海道における今後のインフラマネジメントを考える講演会 ②道路計画と設計のあり方に関する講演会 ③吹雪災害の減災に向けた取り組みに関する講演会	4社	・萩原 亨氏委員長 就任
平成26年	同上			

## 土質基礎研究委員会

- 昭和40年1月 くい基礎研究委員会（委員長 北郷繁 北大教授） 発足
- 昭和48年7月 土質基礎研究委員会（委員長 北郷繁 北大教授） 新設  
くい基礎研究委員会を発展的に解散し、新たに土質および基礎分野における幅広い研究活動を行うために設置。
- 昭和62年度 委員長に、土岐祥介北大教授が就任
- 平成元年度 講習会3回（主催2、共催1）
- 平成2年度 3小委員会（講習、技術、事業拡大）が発足  
講習会4回（主催2、後援、共催）
- 3年1月 「土質基礎に関する新工法・新技術（第一集）」 発刊  
新工法・新技術に対する意識の向上を図り、新たな技術開発の振興に寄与するとともに、公共事業等への積極的な活用の機運が一層高まることを目的とし、土質基礎研究委員会の賛助会員が所有する土質基礎に関する新工法・新技術を取りまとめた。地盤調査、計測管理、軟弱地盤、法面工、基礎工など211件の新工法・新技術を掲載。
- 平成3年度 講演会2回（共催）、地盤情報データベース作成の準備活動、土木の日協賛講演とビデオを見る会、講演会1回（共催）
- 平成4年度 講演会、講習会6回（共催、協賛を含む）
- 平成5年度 講演会2回、サハリン研修旅行（8月、22名）  
5年5月 「土質基礎に関するQ&A集」 発刊  
土質基礎に関わる各職場の技術者が日頃の業務に関連して地盤工学上で疑問に思っていることを取り上げ、その回答を用意し、63件のQ&A集として取りまとめた。
- 平成6年度 委員長に、三田地利之北大教授が就任。講演会、講習会5回（共催を含む）。地盤情報データベース作成作業。
- 平成7年度 講演会2回、講習会1回、地盤情報データベース作成作業。現地見学会（7月 白鳥大橋）、土木の日パネル展示初参加
- 7年4月 「土質基礎に関する新工法・新技術（第二集）」 発刊  
「土質基礎に関する新工法・新技術（第一集）」発刊後に開発された177件の新工法・新技術を掲載するとともに、第一集で紹介された新工法・新技術を用いた30件の工事例についてもあわせて紹介している。
- 平成8年度 講演会、講習会6回（共催を含む）、マレーシア土木技術研修旅行（9年1月、15名）、土木の日パネル展示
- 8年11月 「北海道（道央地区）地盤情報データベース」 公開  
建設事業・地域開発などに係わる最も重要な資料の一つである地盤情報の有効活用を目的とし、道央地区のボーリングデータ約11,000本（うち、札幌市約6,000本）をデジタルデータとしてCD-ROM1枚（ボーリング位置図は別冊）に取りまとめた。
- 平成9年度 講演会1回、土木の日パネル展示
- 平成10年度 講演会、講習会4回。Q&A集発行準備。地盤情報データベース利用状況調査。土木の日パネル展示
- 平成11年度 委員長に、三浦清一北大教授が就任。講演会、講習会2回、土木の日パネル展示  
11年5月 「土質基礎に関するQ&A第2集及び工事事例集」 発刊  
「土質基礎に関するQ&A集」発刊後に寄せられた新たな質問や、第1集で回答できなかったものも含めて67件の質問と回答を掲載。あわせて調査・設計・施工の報告集として「土質基礎に関する事例集」も掲載。
- 平成12年度 講演会、セミナー4回（主催2、後援2）、土木の日パネル展示  
12年6月 オランダ技術者との「混合技術による土質安定に関するセミナー」開催（共催）  
オランダ土木工学情報センターから、機械攪拌による軟弱地盤改良工法に関するセミナー実施の依頼が開発土木研究所にあったため、開発土木研究所と共催。日本、オランダ両国の軟弱地盤に関する研究事例、工事事例の紹介および質疑討論、札幌近郊の現場見学を実施した。
- 13年2月 土質基礎研究委員会のホームページ 開設
- 平成13年度 講演会1回、2002PIARC 国際冬期道路会議札幌大会／ふゆトピア・フェア参加（14年1月28日～31日）

- 平成14年度 講演会1回、講習会2回、土木の日パネル展示  
 14年11月 第1回技術報告会「地盤環境問題に関する技術報告会」 開催  
 (発表論文8編)
- 15年3月 「北海道地盤情報データベース Ver. 2003」 公開  
 平成8年度に公開された「北海道(道央地区)地盤情報データベース」を更新し、「北海道地盤情報データベース Ver. 2003」として公開した。Ver. 2003では室蘭市とその周辺地域のデータが追加された他、デジタルマッピング化により、13,000本を超えるボーリング位置の検索がパソコン上で直接可能となった。
- 平成15年度 講演会1回、講習会2回(共催)、土木の日パネル展示  
 15年11月 第2回技術報告会「地盤環境問題に関する技術報告会(その2)」 開催  
 (発表論文7編、参加者88名)
- 平成16年度 講演会1回、講習会2回(主催1、後援1)、土木の日パネル展示  
 16年9月 「2003年十勝沖地震地盤災害調査報告会」共催  
 (社)地盤工学会2003年十勝沖地震地盤災害調査委員会主催(参加者100名)
- 17年1月 第3回技術報告会「土質基礎の仮設に関する技術報告会」開催  
 (発表論文8編、参加者100名)
- 平成17年度 講演会1回、講習会3回(主催)、土木の日パネル展示  
 18年1月 第4回技術報告会「土質基礎の技術に関する「創意工夫」技術報告会」開催  
 (発表論文8編、参加者154名)
- 平成18年度 講演会1回、講習会1回(主催)、土木の日パネル展示  
 19年1月 第5回技術報告会「土質基礎の技術に関するコスト縮減 技術報告会」開催  
 (発表論文8編、参加者177名)
- 平成19年度 講演会1回、講習会5回(主催4、後援1)、土木の日パネル展示  
 20年1月 第6回技術報告会「土質基礎に関する防災・減災 技術報告会」開催  
 (発表論文10編、参加者101名)
- 平成20年度 講演会1回、講習会1回(主催)、土木の日パネル展示  
 21年1月 第7回技術報告会「土質基礎に関する新工法・新技術 技術報告会」開催  
 (発表論文10編、参加者129名)
- 平成21年度 委員長に、田中洋行北大教授が就任。講演会1回、講習会3回(主催2、共催1)、タイ土木技術研修旅行(22年1月、9名)、土木の日パネル展示  
 22年1月 第8回技術報告会「土質基礎に関する新工法・新技術(その2) 技術報告会」開催  
 (発表論文10編、参加者123名)
- 平成22年度 講演会1回、講習会2回(主催)、土木の日パネル展示  
 22年12月 「土質基礎に関する新工法・新技術(第三集)」発刊  
 平成3年の第一集、平成7年の第二集に続き、107件の新工法・新技術を掲載。
- 23年1月 第9回技術報告会「土質基礎に関するエコ技術報告会」開催  
 (発表論文8編、参加者88名)
- 平成23年度 講演会1回、講習会7回(主催2、後援5)、インドネシア土木技術研修旅行(24年1月、9名)、土木の日パネル展示  
 24年1月 第10回技術報告会「土質基礎に関する地震防災・復旧技術報告会」開催  
 (発表論文5編、参加者102名)
- 平成24年度 講演会1回、講習会1回(主催)、カンボジア、ラオス、タイ土木技術研修旅行(24年11月、8名)、土木の日パネル展示  
 25年1月 第11回技術報告会「土質基礎に関する安全・安心技術報告会」開催  
 (発表論文6編、参加者75名)
- 平成25年度 講演会1回、講習会4回(主催1、共催3)、台湾、フィリピン土木技術研修旅行(26年1月、8名)、土木の日パネル展示  
 26年2月 第12回技術報告会「土質基礎に関する寒冷地特有の問題と対策技術報告会」開催  
 (発表論文5編、参加者102名)

建設マネジメント研究委員会

H26. 7. 1現在

年月日	重要行事・事象	備考
H13.11.30	建設マネジメント研究委員会設立総会開催(5小委員会で研究活動開始)	小委員会:VE、PFI、ISO、CALS/EC、PM・CMの5つでスタート
H14. 3.18	北海道土木技術会臨時役員会で、7番目の研究委員会として加盟が承認される。	
H14. 5.16	「国交省における新しい入札契約方式について」講演会開催	講師:国総研・松井健一室長
H14. 7. 3	平成14年度第2回通常総会開催	
H14. 7.13	「入札改革の意義と建設業の戦略」講演会開催	講師:北大・金井一頼教授
H14. 9.25	南北交流会開催	九州橋梁・構造工学研究会
H14.11.12	米国とのアセットマネジメント懇談会開催	米国:フレドリック・クリション氏 フランス・カノードル女史
H15. 7.11	平成15年度第3回通常総会開催	
H15.11.25 ~11.26	土木学会建設マネジメント委員会主催「第21回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会」の札幌開催にあたり当研究委員会が現地実行委員会を組織し運営する。	「建設産業の市民化」をテーマにパネルディスカッションを実施し「札幌宣言」を提唱。(参加者数396名)
H16.1.29 ~1.30	京都大学主催「ウインタースクール」札幌開催にあたり後援する。	アセットマネジメントに関する6演題の講演。
H16. 7.16	平成16年度第4回通常総会開催 (AM(アセットマネジメント)小委員会を新たに設置)	
H16. 8. 5	「建設産業の市民化」に関する意見交換・講演会の開催 (第1~3回)	①8/5室蘭地区、②10/19函館地区 ③12/15稚内地区
H16.9.6	講演会テーマ:公共工事におけるCM技術の活用 CM受注例:「市町村に対するアドバイザー契約について」、 「胆沢ダムにおけるCMの活用について」	
H16.12.7	第22回建マネ研究発表討論会in福岡「南北交流会」への参加	
H17.7.14	平成17年度第5回通常総会開催	
H17.8.31 ~H18.3.16	「建設産業の市民化」に関する意見交換・講演会の開催 (第4~6回)	④8/31小樽地区、⑤11/9釧路地区 ⑥H18/3/16旭川地区
H18.7.14	平成18年度第6回通常総会開催	
H18.11.6 ~11.20	「建設産業の市民化」に関する意見交換・講演会の開催 (第7~8回)	⑦11/6帯広地区、⑧11/20網走地区
H19.7.13	平成19年度第7回通常総会開催 (小委員会組織を大幅に変更)	
H19.7.13	講演会「地方における公共調達を考える」 郷原信朗氏 講演会「地方の社会資本整備のための資産流動化」 中村祐司氏	通常総会後に開催
H19.11.26	「建設産業の市民化」に関する意見交換・講演会の開催 (第9回)	⑨11/26空知・留萌地区

年月日	重要行事・事象	備考
H20.1	インターネットを介して入札制度に関わる住民意識調査を実施	
H20.7.16	平成20年度第8回通常総会開催	
H20.7.16	講演会「ねじれ国会と福田内閣：衆議院選挙は政界再編の引き金となるか」白鳥 令 氏 講演会「インフラ事業における民間資金導入」八代晴美、玉真俊彦、横塚雅美 3氏	
H20.11.15	住民参加型総合評価の模擬入札の実施	
H21.6.6	住民参加型総合評価の実験 (国道230号喜茂別市街交差点工事)	
H21.7.14	平成21年度第9回通常総会開催	
H21.7.14	講演会「ファンタジー営業部とは何か？～建設会社の柔軟運動」岩坂照之 氏	
H22.2.25	特別幹事会開催 (各小委員会のあり方について)	
H22.7.16	平成22年度第10回通常総会開催	
H22.7.16	地域シンポジウムの開催 (パネルディスカッション) 「留萌元気プロジェクト:高宮則夫」、「稚内ワッコープロジェクト:富田伸司」、「空知フード&ワインロード計画:植村真美」	
H22.11.26 ～H23.3.17	「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会・講演会 (第1～2回)	①H22.11.26オホーツク二建会 ②H23.3.17小樽建世会
H23.6.4	住民参加型総合評価の実験 (国道5号蘭越町市街地線形改良工事)	
H23.6.10	平成23年度第11回通常総会開催 (小委員会組織を大幅に変更)	
H23.6.10	講演会「インフラ事業におけるPFI/PPPについて」宮本和明 講演会「経済学はなぜ間違え続けるのか」木下栄蔵	
H23.8.11	2010年度土木学会建設マネジメント委員会表彰において、「公共工事入札における住民参加の実験」がグッドプラクティス賞、「公共工事入札における住民参加の可能性に関する研究」が論文賞を受賞	
H23.12.9 ～H24.3.8	「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会・講演会 (第3～4回)	③H23.12.9釧路建親会 ④H24.3.8 空知経営研究会
H24.6.14	平成24年度第12回通常総会開催	
H24.6.14	講演会「災害対応マネジメントのあり方について」 (財)建設経済研究所 松本直也氏	
H25.3.22	「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会・講演会 (第5回)	⑤H25.3.22宗谷建設建青会
H25.6.6	平成25年度第13回通常総会開催	
H25.6.6	講演会「入札契約制度の歴史的考察」 愛媛大学 防災情報研究センター教授 木下誠也 氏	
H25.12.7 ～H26.4.12	「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会・講演会 (第6～7回)	⑥H25.12.7函館道南建設二世会 ⑦H26.4.12 帯広二建会
H26.6.6	平成26年度第14回通常総会開催 (小委員会の改名・新たなWGの設置)	

年月日	重要行事・事象	備考
H26.6.6	講演会「若者を建設産業に取り戻す」 (一財)建設業振興基金理事長 内田俊一 氏	
H26.6.16	「地域建設産業活性化」等に関する意見交換会・講演会 (第8回)	⑧H26.6.16室蘭経営研究会